

6

⑥

M.23.5.14
~ 6.18

5.18ヲ記了、14~17歳

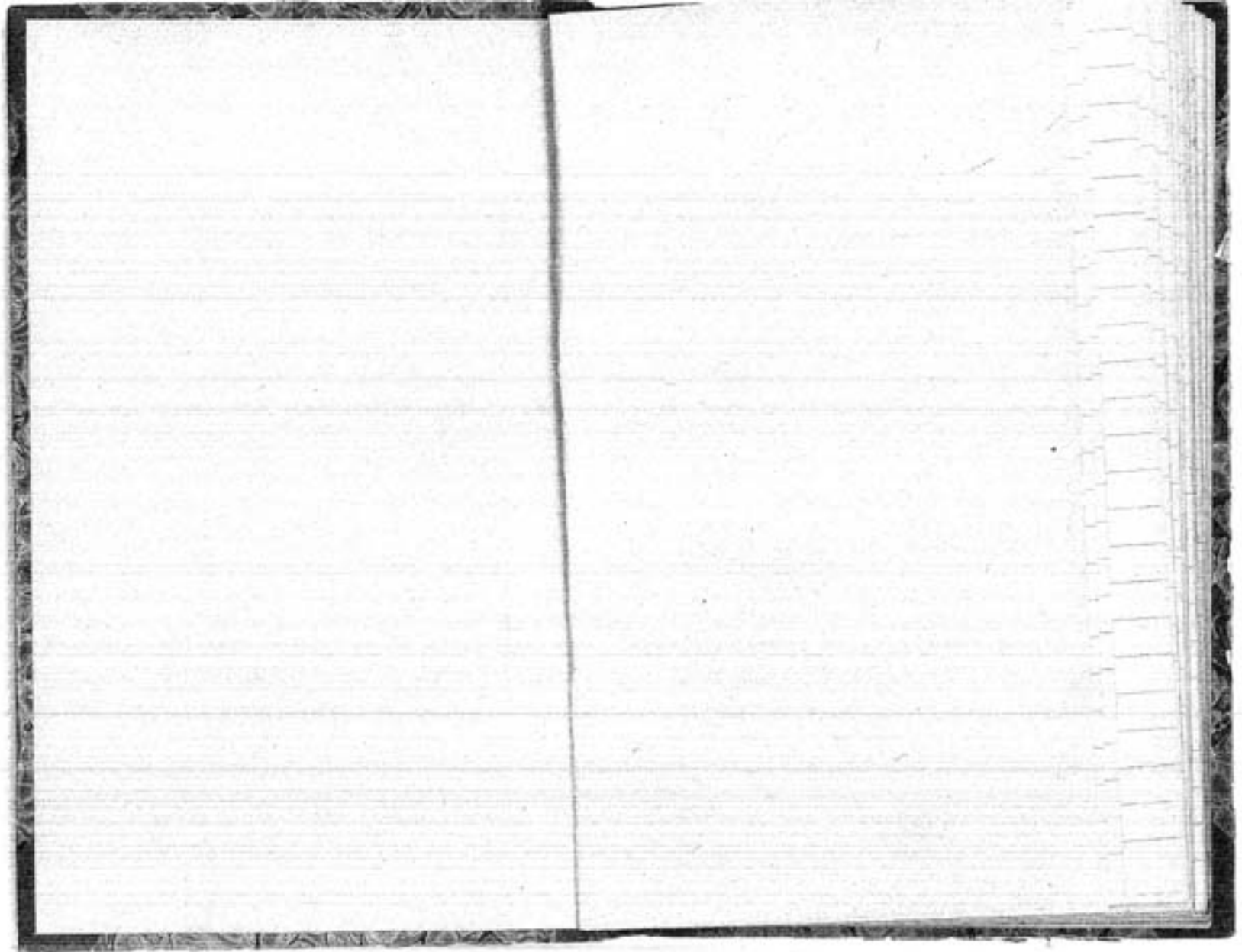
フキよのたび

明治三十三年

自五月十四日

至六月十八日

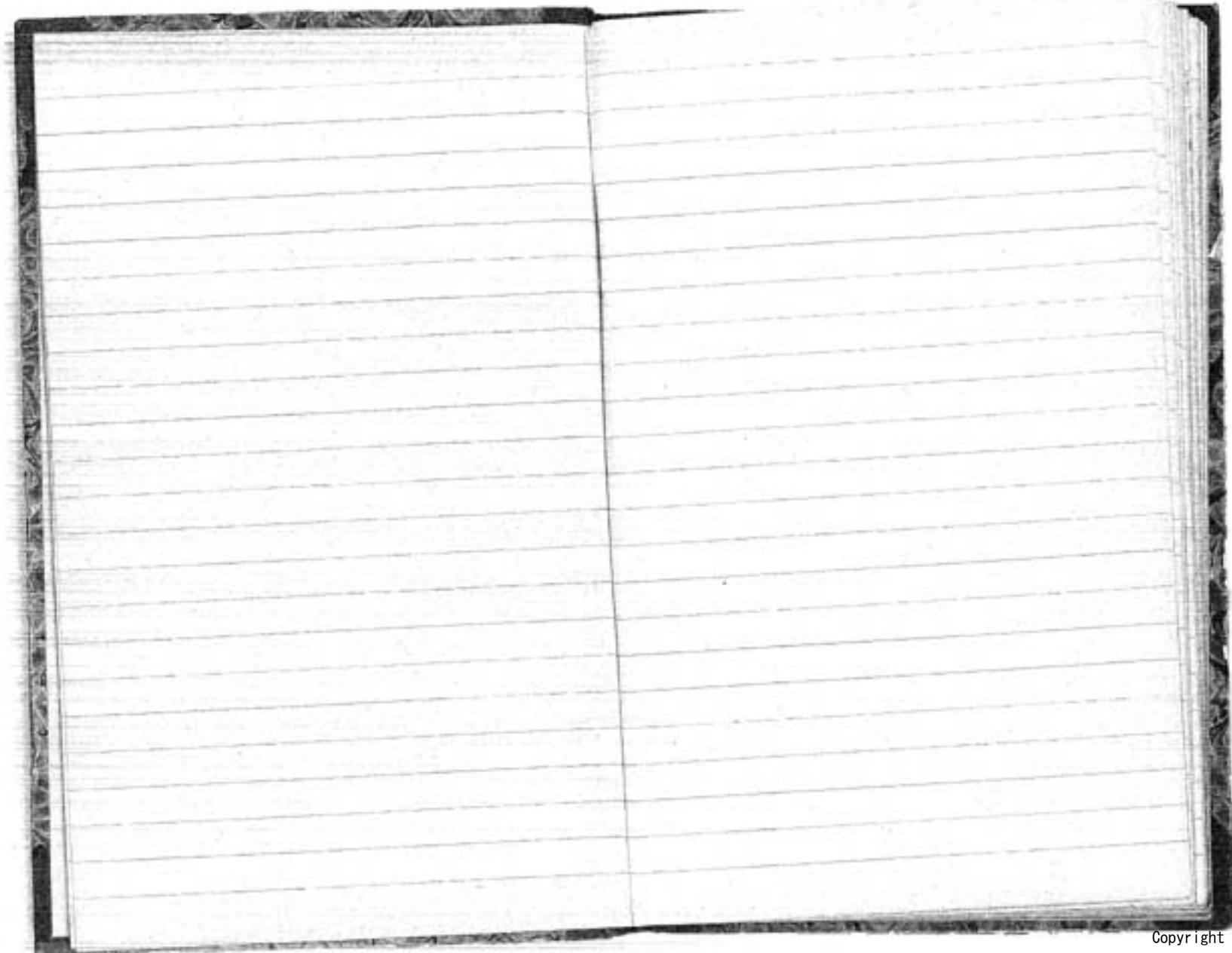
第六



る
た
よ
け
ら
あ
び
6.

五月十四日

五月十四日

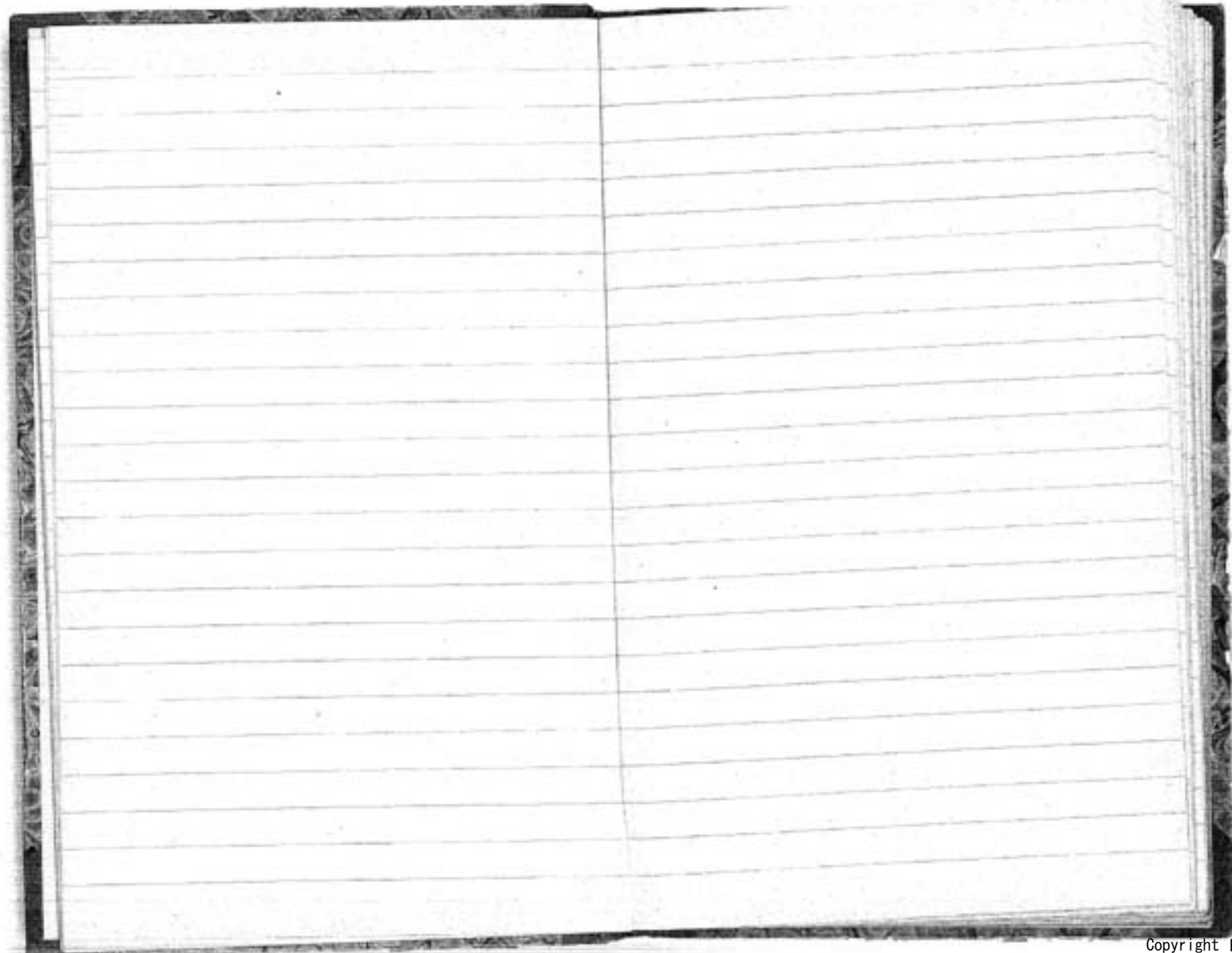


九月十五日

121 1

2月14日

五月十七日



五月十八日

今日ハ智二學友等アリ往年長有孔氏ハ喜中亭
 入學ハ英法ヲ以テスルト云フ條令ヲ設ケル
 今般取リ消シタル付キツテ見ヒラ兼子ヲコノ
 三催シタルナリ午前十時半見ト共ニ當リ出テ
 坊外講義堂ニ赴ク乘車者ハ大學ノ生、智中
 亭也、有得齋生、智二學場各學校也、學友等
 生、智二學場也ニテ臨時六百名乘車ハ内國、
 費賤(智二學場・同條也)及ヒ教員若者氏ヲシ
 ハハ大匠博士周等スル旨ヲ述ブ次ニ法科大
 學也天野森助氏周等、主臺ヲ述ブ彼レハ中々
 沈着ハモノナリ次ニ智二學場生、智二學場
 授正ハ智二文、智二譯ヲ朗讀セシガツト拙劣ナルニハ
 智二入リタリ。喜中亭及智二習院ハ日本文、智二譯ヲ
 朗讀シ智二學場ハ原文、智二譯ヲ朗讀セシカ
 處ニ上出タリ大學ハ法科生馬島睦之助氏ニカツテ
 シ禮儀ヒツ次ニ德積、大匠、平田三氏、演ラヌアリ
 何レモ無難ナカシ德積氏ハ言法爽カ大匠氏ハ
 滑稽的ニ平田叔父ハ散漫ナリ次ニ長井博士ハ演
 演アリ次ニ吉本大臣、身上ヲ告シ心算致シ、必要
 ヲ演ケタル禮儀アリドコカニ威屬アルハ大臣ナレバツ
 コレヲ等々閉ザルガ禮儀ノ旨ニハ始終奏業アリ

同會、繁幹、色桂太郎氏ハ智二學場ハ英法兩國、此會ヲ設
 ンハナリ

中々、盛況ナリテ終リテ一同ハ弁當ヲ配布シ食後
柔陽ニ先驅ニテ飛島山ヘトクハ此ニ途中ニテ
兩ニ逢ヒタルバ引キカハシタルモ多クキイリ長井ノ
捨後、大長法氏ハ兩ヲ犯シ飛島山ニテ自歩行
セリシハ智ヲ入リタリ兩ノカニ運動モ出来ズ只
押込ト酒ト會ヒテ放歌高吟或ハ劍舞ナドスル
モアツシニ余等ハ四時歸途ニ就ク長島勢雄氏
共ニ余ノ寓ヲ訪フ態ヲウヘル次テ足立、大國ノ
兩氏來ル見ハ酒ヲ命シ花合戦ヲ始メ終リテ
臈籠ノ命ス大國ト足立ハ團蒸ヲ始メタルカ十二
時迄ハ此ニ歸ル景色ナシ余ハ如クシテリケンニキリ
ニ腹痛ヲ催フルニ堪ヘ難ク果ハ流席ナル下痢ト
吐瀉ヲ起シ七時半ハ倒ノ甚痛ヲ受ケタリ思フ
ニコレ今日ノ料理ニ中毒セシツレ一時半露ニ
就ク

今日、余ハ外国人一人モ欠ケザルハ皆ニ公使外交上ノ商
務ヲ思フ一般ニ吾國人ノ来者ヲ差シ止メテ故ナリカヤ
又来賓中ニハ江原、大内、ナドモ見ヘ其他關口、岡倉
ナド呼バレルハイダ無クモソノ中ニ五セリ。尤モ惜
カレハ加藤天則博士、エルフエニゲルニ罹ラテ欠席
セラレシトナリ

五月十九日 (月)

今日モ大雨シカキテ陰気宇宙ニコモリス
余ハ昨夜ヨリ苦シニ精神全ク衰弱シ
テ朝ニサテモ起キ出ルコトヲハスウトウト
現ノ如ク夢ノ如クニ暮シテ終ニ十一時頃
ニナリヌ。見モゾーグート現ルハ夢ノ如ク
同刻ニテ寤辰タリ。トマダ寝テ居ルヲ
云フ声ニ醒カサレテ起キ出ヅルハ寢ニ從テ
坐ニ就キヌコシ田中苗七郎博士ナリ三人ハ
始メハ抛ラテ事トシタルガ終ニハ例ノ如ク
花全戦トナリ凡ソ三ヶ年ノ激戦ニ余ハ全
勝ヲ得タケル例ノ如ク、ポイントゼーレ
トヲ命ジテ獲ラシキニ日暮ル頃田中ハロソ
大霧ダ半日ヲ浪費セリトツブヤキナガラリ
余ハ夕食ノ後平田ヲ訪ヒテ叔母ノ病ヲ訪ヒ
拵括叔父ノ病ヲ訪ヒテテ客ニリテ
支ヨリ更ニ出直シテ先ツ小林所長氏ヲ
訪ヒ榮成氏命取リ立テ事務ヲ托レシ
勅分時ヲ、今夜ノ後此叔母ニ行キ
テ原稿ヲ渡シ支ヨリ例ノ如クヒニ
テ立テ飲ミレ本御通リ理醫族ニ入
テ醫ヲ刺ラシタリ嘗イハレハ已ニ十時ヲ

此ノ事ニ三ノ雜事ヲ行ヒテ終ニ就ク
判決ニ十點ナリ

五月二十日(火)?

七時起きハ八時半電授ニ時死ニまじ
リ例ノ無駄書キヲ如ク三時半迄ハ
石井支那氏来ル彼ハ余ニ一書ノ文書
ヲ示シテ浮削ヲ乞フ余愛ケテコソ見ル
全ク文ヲナサズ強トテ電授ニ徒ガ依リ
モニモ切レル位ナリ余ハ心中大ニ苦カ
ルガ左フ又件ヲヨキハ減ニ削リ去リ
ヤリタルハ彼ハ日暮辭シ去リ嗚呼彼
ハ今帝國大學々生ナリ彼ハ二年以内ニ
學士トナル而シテソノ文字ニ通セザルユ
斯クナルニ余習カザラント歎スルモ能ハ
ザルナリ彼ハ權、談、寄、熱、等ノ平易
ナル字スラモ矢ルヲザリシ斯クテハ書面モ六
ニハ書ケマシ。アレダマ一ヨク世ノ中ガ通レル
モノ哉恐ルベシ。彼ハ斯ク不文ナレモ
モハ丁手モハ丁理屈ハ人並ニナラベル能
アリ酔酒後モスヘバ歌モ唄フ。ソノ手ハ?
字ヲ書キ病入ノ脈ヲトル。美人ノ手ヲ
握ル。ソノ手ガ嘗ハケンラウツ。ソノ手ヲ飲
食スル。ソコデ世ノ中ガ通レルナリ。手ノ用ハ
ソ工藝文學ノ用ニナラス工藝文學ニ用

ユルヲ矢ルヲ義人ノ手ヲトリ。醫ノカクヲ拂ヒ。
飲シ食フコトヲ矢ルヲザレバ一向ワマラスモ
ナリ。併シ年ハ義人ノ手ヲトリ醫ノカクヲ拂フコトヲ
義事ナリト思フ者ニ此レザレバコノ段ハ了ラ
ズ。日暮同封葬ス。是レ久レゴクニテ
入来アツ例ノ通り火鉢ヲ夾レテ文字ヲ書
ク女如ク似レハ例ノ女如ク古今ノ事ヲ評
論シ如クナルカ。孫ニ此頃ノ珍貴トコハレ
タル日本文字全書ノ字ヲ書クナリ似レハ
學式部時代ノ文字ノ條ヲ見ルカモルニテ
太古ノ漢語ヲ引用シタルモ、故大ニ解ニ建
キナリナド面白キヲ受色ハ速ベク似レハ
清ガ納言ノ枕草紙ヨリ轉シテ枕草紙即チ
春畫本ノ字ヲ如ク如ク年ニ一ノ奇聞ヲ若クナリ
即チ或ル紳士ハ春畫共進會トモツベキモノ
船中ニ作リ古今内外ノ春畫ヲ蒐集シテモ
コトナレ三條、崇實、若大臣、若公卿ハ必ス
一部以上ノ寄送アツソノ外屬事ニ關スル一切
書類コノ秘藏ニ用ル藥類及器具等モ
リ往々入リテ面ヲ掩フテ倒レシムルニ至ル
モアル由世ノ中ハドナ事ガアルカ知レヌ
世ノ中ハ廣キモノナリト年ト同封ト歎ジテ其

ヲ見合セタリ。余ハ彼トオルガレヲ同ヘ
ビニルヲ飲ム九時半同打リル時ニ細
雨降リツ、アリタリ余ハ彼ヲ送リテ沈船
有マテ至リタル途中海草紙船ノ音ニ立
テテ彼ト飽シマテ伊通ヲ成シタリ十時
象ニ廻リサレク落字ヲ見十一時教ニ
就テ判決ニ十二点ナリ

五月二十一日(水)

七時半^{起キ}登校九時半授二時帰宅シケン
ク録画ヲ回ス三時半平田君へ赴クコト
今日ハ余ノ祖父ノ弟三國君ニ参リバナリ兄
モ弟モコト集マツ芝目上集サレニ棚栲古
英伯父モ来リテ其ノ懐旧ノヲ聴クヲナセ
リ余ノ祖父名ハ野迪人トナリ剛毅沈着ニ
シ忍耐強ク温良篤実^{ニシテ}嚴俊死
スベカラズ^ノ歿ル人物ト称セラル伊東ノ一黨
シ今日ニ至ラシレハコト人ノ知多キニ居ルヲ
父年老ニ畏博ク今日ノ形勢ヲ察シホク天
保地人ノ憂息ヲ致タズ明日ニ一周年
今日八十五歳ノ寿ヲ保テラ汝レタリ来次
金郷ノ士民一人トシテ祖父ノ徳沢ヲ蒙ラザルモ
ナクツノ歿スルナ一人トシテ哀哭セザルハナカク
平田ハ余ニ来ル土曜日共ニ相向^ハ蓮子へ赴ク
バキトク云フ五時半見物三人お母ヲ告テ
菟川町ニリテ余ハオト原野馬場ヲ見ル
七時頃ナウヤク片ツクテ共ニ流氷ヲ見テ至ク
路ビール木塚一ツヲ見ル^ハ耽ラザル
ハ喜スベキナリ^ツ翌日^ハ後余ハ画ヲ回シ又
(乳母ハ直ヤニ別レテ帰り来リ) 字ヲ研究スル

比大2得儿所+レ十一时 暮23点0时

决二十三点+)

31日加急 天则博士 弘之氏 犬守 隆
長+)

五月二十二日 (木) ?

八時起きテ直ヤニ筆授ス三時申キトホケ
家ニ归リテ見ト坐墊、整理ニ往ルヲ
今日ハ珍ラシク見モ奮發シテ掃除ノ始
ノ冬堪束ハ残ラズ片ツケテ夏堪束ト變シ
リコノ掃除ニ凡フニ耐る餘ヲ費ヤシ終
リテ一休息スル頃ハ已ニ夕食ノ頃トナリ又
夕刻見ハ山田野弘君ヘト行キ又余ハ
右ノ毎雜誌ノ校正トソカワリテ又モ一
時ヲ費ヤレリト上 雜誌ノ原稿ヤリ
クリニ凡フ一時間ヲ費ヤレリ毎反トゴラ
コノ務ハ多ク一時間ヲ奪フモ一ノ余
ノ仇敵ニテアハナリ右ノ路ヲ好學ヲ見
ルニ一ツモ分ラズソノ笑ナリ好時ヲ難クニ
脳ヲ絞リタルアゲ句+レバ突然 精緻同
密ヲ要スル好學ヲ見テモ容易ニハ吞ビ
ノ又ナリ余ハヤララ好學書ヲ押シノケテ
喫茶ヲ始メ雜誌ヲ讀ミ、畫圖ヲ見、
色ニ考ヘ事ヲレバく脳ヲ難事ニ濫用
セリトシテ今年ハ終ニ勉強スルヲ能ハス
併シ兼テ交カテ十二時ヲ聞ケドモサレテ
予グタカラズ是北ナク後ニ付キタルモノ

故唯せいハ二時半ナリ見ハ微々存ナリ
ニテ二時頃ナリ来リ

五月二十三日 (金) 飲

七時起申出マハ時を授午ヨニ時ヲキ出
ケ丈シク五軒町ノ長島ヲ行フニ在ッ由ヲ
青柳亭ニ至リテ明日東京ニ去ル由ヲ告ゲ丈
シヨリ車田ヲ傍ヒ教父ヘ但ク明日返子ヘ
行カハナラ内フニ教父ハ今日ハ屋リ狂徒ス
ベケバ不詳、明朝使ノ者ヲアルベシト教母
ハ云ヒタリ茶菓ノ馳走ヲ受ケテお田ノ辞シ出
テ行カントスル片 庭ノ方ニテカワニ物有ス
故ニ行キ見バお田ノ見尋ハナキ授ノ友
トケ三四人ト共ニブランコニ乗クテ遊ガリケ
余モ子供ニシテ仲間入りシテブランコ乗リテ
ノキツキヤト三十分斗ク騒々タリ丈シヨリ馬車
ニテ本町ニ至リ返子村ノ地圃ヲ見舞ヒ直
ケル馬車ヲ飛シテ上野ヨリ寄リヨリ明日
ノ旅ニ度ト有る旨ノ度トニ寸暇ナシ
おツシ田中、中山両才子来ル共ニ花ヲ文
タルガ例ノ通り余ハ全勝ヲ得タリ即チ
例ノ通り出金シテビールニ本ト乗取トフ
買フテ食フコト出金トハ外面上ハ度々若
ガ掃ヲ掃ナシニ坐ハイツモ家主カ引キ受ル
コトヲ勝トガ度々ヨーガ魚ノ角花ノ後ハ

91
1
2
3
4
5

酒ト肴トヲ宿セシ若ガ出スモノナリマコトニ
引キ合ハヌ勢ニテコトニ余ノ如ク常ニ勝別
ヲ得ルモノハ一層ハツマナサフ境ユルナリ
十時兩差歸ル余ハ明日ノ準備終リ
十一時終ニ就ク決ニ十六日ナリ

五月二十四日(土)

余ハ今日アリ毎文ト共ニ相分ニ浦御運子
 坊ハ往クベキナバ心中ニ衆ニシテ思ヒタリシ
 時半頃子細ヨリ使男来リ十時迄ニスガ
 余ハ来ルベキ由付言ス余ハ八時迄ナク仕
 三洞ハカツツ持来スベキ品ハ一ニ画板画
 紙、地図、コンパス一挺、定規一組、硯石、
 持ノ貝、筆墨瓶、コモリ、時計(オトコノ時
 計ハ年月ノ始ノ付先月ノ末那珂ガ余ノ家
 思ヒ入ツテ盗ニ去レリ) 金子(オトコノ時
 ハ僅ニ金貳枚ナリ餘ニシテナク) 等々ニナク九
 時半頃田舎ヘ赴ケバ二人ノ見ハ大醫者キ
 喜ヒ狂ヒ居タリコレハ余ト共ニ新橋ヨリ行キ
 運子ノ父ニ隨ヒ行キナク毎母ハ見尋出
 ニ小テハ荷ヲ送ルナクコレモ大醫者ナリ十時
 半ゾクト車ヲキレテ家ヲ出テ途中ニテ尺
 度ト紙ト見購ヒヌ新橋ニ至レバ母ナホ
 早キ故余ハ二人ノ見ヲ相手ニ為スコトナク
 四十餘分ヲ待テレバ叔父ハ官給ヲヨリ来ッ
 余ト共ニ中央門車ニ乗ラセテ新橋ヲ出シ
 タリ余ハ次ニゴリノ強行ト云ヒ久シク安ニ
 早キ久シクノ村等列車ヲ大ニ満足ニハ不

智

山ノ見
 山ノ見
 山ノ見
 山ノ見

惘若ヤセツル来ハ涙ハ愚カ、ツト吞込ミタ
ル為体ニテ和ハ居ル、同席ノ奴等ハ史レテ
知ラス、一見馴レザルツナリヲ中等ハ乗ツオ
クハ、開キ及ンダ、伊東先生^イナ、ト獨言セ
レタツ、面白クモ子一語レリ。以存、女ノ流
車ハ中々速クナルモノニテ、忽チ横原ヲ經大
舟ニ至リコトヲ流車ヲ樂々替ヘ、横須賀
路ヘト行キタルガ、余ハコヨツハ目新シク覺ヘ
シ、東南ニ向テ四哩半ノ行程ヲ、區ルル片
一、Tunnelアリコレヲ越エバ、古ノ勾圖ニ
ル下リ坂アリ坂ノ下ハ直ク、鎌倉ニシテStation
ハ大町村也ニテ、外見タリ、往日ノ鎌倉ニ比
シテ、見ルニ、勸圓ノハ幅長ク、觀音堂ハ依
然トシテ高ク、由井ノ渡、稲村ノ島モ依然トシ
テ長ク、此ノ人家ハ昔日ニ一倍シタルヲ、現業ニ
得タリ、コトヲ去リテ行ク、一哩余ニシテ、再び
Tunnelアリコレヲ越エバ、鎌倉ヲ經住シ
シツニ、哩ノ行程、後余等ハ、逗子村、
停車場ニ着セ、時ニ午時ニ、時カク、區キタ
リ、然レニ一ツ圖リタルハ、余カ持来シ、ハ
画引、直見一式荷物ヘ、廻シタルモ、如何ナル
處ニテ、コトヘ到来セザルコトヲ、余ハ至急電報

ニテ同に合セラレ旅キ旨ヲ去ゲト先ツ 強宿
 へトオ付キタコノ強宿ハ甚ク面目ナリ次オ
 ナルガフ家号ヲシバサジ併仕民ハ只ク
 温泉ト名ツ居ル海水流アルバツ宿ハ
 料理店ヲ菓子ケタル藝妓ヲシ若ニ名一
 オゴマカレノキク(田舎漢ニ對シ)酌取^キ身^サン
 四五名ヲ飼ニ置クナリ位置ハ直クニ海岸
 沙漠上ニ立ク田越村ニ屬ス 庭子ステーション



ヨリ東西南北ニ町ノラキ
 アリ眺望ノ佳極ナルハ
 日本三景クツラ食ハトス
 フタツ先ツ小坪ノ崎
 江ノ島ヨリ大磯ノ田原

ラズト見トシニ子山, 約ヶ岳 大山 丹次山ガ
 整列スルツノ上ニ天ノ上マデ上マデト遠慮ナク脊
 高キ富士山白頭ヲフリ廻ハシテ立ケ上ガレリ
 西南ハ初島, 天城山ヨリ大島ヲ見ルコト江
 島ノ景ニ比シテ又一倍増レルト見ハ脚目カク
 凡ソ真ノ美景ハ人ノ多ク知ラズ所ニアリ日本一ノ
 松島行ヲ見レバ成ル程ハ一倍ノ價ツ金
 沢八景, ハテコレガハ景トハトテ聖山位ノ價ト
 リ, 大臣サン, アルデニ大臣カミ, 大學教授, アルデ

カ?コレデモカ?コハ……コレデモカーフトハ沙:
 アラヌ沙辛ハゲニ苦クレモナクセル哉。真義
 景ハ人多ク知ルヲ又明ニアリ。運子ハ人多ク知
 ラザレドフノ義景ハ突ニ名状録ニ難シク
 レ運子モ人ニ段コシラレルト味ガ薄クナルヲ
 餘リ吹塵シスニ置クベシダト余ハ獨言スル
 者ナラズ。宿ニ着テ休息ノ後余ハ再ビ
 停車場ニ至リテ詮判ヲ遂ク家ニリヨリル
 ハ毎夕ハ二見ト是ニ海岸ニ出テ貝ヲ採ヒ
 居リ四五、可憐的少女等モ打ク交クテ
 或ハ海ニ入り或ハ沙原ニ走リ廻レリ海
 至テ遠慮ニテ十間毎ニ深クニサヲ
 ス割合ナリ余モ曠ニ樂ニテ靴ヲ脱シ
 足トサテ海ノ水ニ浸リ貝ヲ採ヒ、子供等
 ト狂ヒ廻リ、少女等ト追ヒツ追ハレツ、
 砂ノ上ニコロコロトマロビテ天晴レノゴマ餅
 トナレヒ一たび身ヲフルハバ忽クニテ元ノ清キ
 身トナル砂ノ清淨精細ナル推シテ知ルル
 四時高松某ナルマ、来リお田ノ貝籠ヒクシト云
 フ地面測是係ノ今日抗ノウフニ由リ立テ合ヒ
 異レヨト云フ余ハ衣服ヲ正シ彼ト同道シテ
 フノ地ニ至リ立テ合ヒノ上十餘ノ杭ヲ立テ、

〃
 〃
 〃 〃
 〃 〃

境界ノ定メ家ニリヨリ吏ヨリ沐浴シテ
ノ飛傍ノ態シ夕食ヲ忍ム酒ノ欠タルハ
コレヲ近頃ニ無急ノ至リ況ニ教文ニ招酌
コトヲウインフ化頃ムケタルハ余ガ腹ノ虫ハキ
リニ狂ヒテ余ヲ用ラセタツ魚ハ鮮ニ米ハ精ニ
味缺ル佳良ナレバ余ハ飽マフ一食ヒテ
満足セリ日暮平田ニ井上教氏ヲ訪フ井
上君モ命日コトヘ来遊アツシツ余ハ二見ノ
伽ヤコト命アレバ画ヲカキ物語ヲナシ
ナシテニ時召余ヲ二見フモツレタルハ近頃
ノ大役ナシ九時退キニ見録ニ就キ子田ハ
何カ雜書ヲ讀ミタリ余ハ子田ヨリ曲亭嘉書
ト云フモノヲ借リテ大ニ樂ニ讀ミタリ十
時半寤ニ付ク蔭團ハ絹布ヲラグクハ神
意ナガラナキ余ガ子生ノ煎餅的蒲團此
ニアラズマコトニ寤心コトヲ枕邊ニテ久シク
ノ樂眠ヲ逞フセリ嗚呼旅行ナド面白キ
コトハ世ニナシ他郷ノ樂タル位面白キコトハ
世ニナシ但シ金錢ハ沢山有ルトシテツ徒ノ
推背シタル物等ノ中央ニテ酒樓ニ登リ
ナトト驛ト怒ラスモ樂ノ大ナルモノナガク
ノ樂ニハ下品ナル樂ヲセヨコレト樂ヲ

万傾一瀉自浪岸ヲ洗フト云フ也ニテ砂ノ
上ニ見垂ト貝ヲ拾ヒ海面色ガ突出セル絶
壁斷巖上ニテ行厨ヲ開ケク寮ハ上品ヲ
ル寮ニシテヒビトシタル寮^ノナリ 斯カク雲
地ニハ永ク往ヒタチモノコソ。

五月二十七日 (日)

奇々怪々ナル瑞夢サレバ余ガ眼ハ自ラ開ケ
時正ニ午爲六時ナリ予ボツ眼ヲコソリテガラシ
子ヲ離シテ椽先ニ出テ先ツ相豆山ニウケテ眺
メタル地ヲサ何ト履ハニ物ヲシ余ノ手水ヲ
終リテブラクト庭前ヲ散歩セリ時、午、精
神ハ全ク候氣ヲ離シテ在リ余ハ心中何トナク清
々ト昂々揚々鶴ノ池汀ヲ歩ムガ如ク鶴ノ
沼池ヲ渉ルカ如ク獅ノ山路ヲ跨ルカ如ク
熊ノ経徑ヲ跋ルニ似タリ平田ニ西見モヨ
ク森入リテまサノズ碑トマダ折々坐敷ヘ
往來スルノ外寂莫トシテ声モナレシ時一同
起テ出テ、シバラクテ朝飯ヲ終リタツハ時高
松氏親測量、準備出来ルバイザチ着手
下サルベシト云フ余ハ測量ニ就テ難クツノ
方法等ニ就テ物ヲ語リシタルニ彼モサレク心得
アル風ナリ余ハ八時迄ヲ暮ラ出テ現場
ニ至ラテ見ルニ簡租ナル plain table ト云フ
器掛ト同繩ト竹竿アルニ余ハ一ニ
指圖クツカヘ三四人ノ人丈ヲ指揮シテソ
レ以テ測量ニ従事セリ自ラ西走東奔シテ取
リテバカル勞力中々一通リニハアラザルナリ

然しモ器具、不完全ナルニ人丈ノ不無疎ク
以テスルナレバツノ結果、不充ハハ快ニテ
第、罪ハアラザルナク一吋過キ全ク測量ヲ
終ユ（コレカク芝キ第カ荷物到着セシテ）
同ヲ宿ニリヨリテ製團ニ着手セリ午飯ノ後
手田ハ井上ニ行キ兩見ノ海岸ニ走リ
出テ、風ヲ控ヒナドセリ時ニ隣室ニ三四人
ノ宴アリ控須臾、書生ナド、覺ク餘飲飽
食ノ末女子ドモト大立カ廻リテ始メ枱キヤ
ト叫ヒツ、追ヒツ追ハルツ、組ンブホゴレフ
上ニ下ニナリ、竹早言語同酌ノ狼籍ヲ
極メタル末一同海岸ニ走リ出テ沙ノ上ニテ
又モヤ酒盛ツテ始メタル景色丈ヨリ豪ニ
引キツテ三絃ノ樂アルヲ聞キタルガ折角
ノ仙境モ御等カあるニ大ニツノ雅致ヲ
失ヘルコソ口惜シクニ三時頃手田ヨリ来
リテ午膳ス年ハ全ク製團ヲ終リ兩見
ヲ行テテ手田ニ示セハニ手田ハ大ニ余
ノ汚ヲ謝シタリ余ハ遠ク出テ浦々、景
色ヲ眺メルトテ兩見ヲ伴ヒ河ヲ渡リ
岸ニ泥ヒテ南ノ方ヘトゾク行クニコハ
眺望一レホニテ七里外漢ヲ由リ濱也

手ニトル如ク見ヘタリケル兩見等ハ海岸、
石ヲ躍リ水ヲ蹴ヘクハ一モ魚ノ住ム

「コレハ何ト云フ虫ナルヤ」—「アヲ羨シヨ」

—ナド面白ガヲアテテ洗滌ニ愉快ニ
踏草ヲ食ヒタリ四時迄キ藪ニ泊リテ

宅ノ用器ニリカナル田ハ助ケテ耕ヒ
テ外ニ莫大ノ草料ヲ拂ヒルニ宿ヨリ

二尾ヲ贈リタリ午分五時二十三分、流存
ニテリヨル頻ニハ四時四十分宿ヲ發

シ五時ステーションニ着シ傍ニ兼次主人
即チ彼ノ高松氏トテ流存ニ到ニ及ビタリ

井上君トシテ田ヲ見送リタリニ十三
分發シ流存(中等)ニ乗リ込メニ因リテ

區子ヨリ西洋人(英人)五人連レモ、同じ
乗リ込メタリ、鎌倉ニ至リテ見セシコト

洋人略十名待テモクテ我等カ列車ハ
込メタルガ中ニ英人ト日本人トアリテ

トヨク談シセリ日本人ハ余等ノ一組トシ
テ三人連レテ安次人カシニテ大舟ニ乗リ

替ユルハ余等ガ列車ハ全ク人ヲ以テ
充タレ立錫ニ地ヲマデニ達シタリ最後

ニ三人連レタリ女中連テアツコカガ

シマス。彼ノ三人ノ一人ハ下女一人ハ二十三
四ノ丸醫ヲド一見テモ八十点ガ價ハアル
余一人ハコレヲ絶世ノ美人ト云フカズト得ルナラ
バ余ハ百点ヲ與ヘントスバレ身ハ十八位ノ
高島田頬ノ色ハホトトニ櫻色ヲマコトヨ
キ秋ニフクラミ願ハガレ細クワテ卵ノ夫ノ孫
ニ丸々終レク肩ハボートシテ品ヨク眠ハ愛ラ
シニ重マフテ唇ハヨクシマツタル愛嬌形
トヒテ欠点ナアル所モナシ惜ムラクハ彼ノ
声ノ細カザリシコトヲ女連ハ癖ノナキマニカラテ
タズミケルガ彼ノ娘ハ年ト昇ト間ニワラ
ズシテ彼ノ大ナル香、マコトニフクツトシケル
味ヒアル唇ヲオケワケタリ丸醫女史モコレニ
カラヌ上等唇ヲ余ノ一方ニ置キタルバ下女
ハケツラ抱キテソノ傍ニタズツリ余ハ星ニ
抱テ全ク両美人ノ間ニ夫マレテ身ノ動カスノ
餘地ナクモウ屈ハモウ屈ナガラ世ニモ稀ナル
美人ト思ヘバコレヲシモ忍ビシナリコノ両美人
ト相對シテ二人ノ譯人アツ島田嬢ハ始
終取上ル女ノ頭ヲ壺レタルモ西醫女史
ハ常ニ微笑ク食シテアツラ見マツセルハ
中々剣戟ヲシテ先生ナリト向ヒテ譯人が

程ヲ張ラシメテ彼ハ智ヒ人ニテ店ノ番頭ト
云フ風体ナル者一人曰ク見ヨ今來ル彼ノ
美人ハ實ニ余等カ辨ニダシ見能ハザル者ナリ
彼ノ席ナニ用ツタル椅子ナリ余若シ得ル
ナバ彼ノ美人ヲシテ年ノ傍ニ坐セシメ一
人後ヲ曰ク君ノ華裳上ヘ彼ヲ坐セシメ
バ如何^カ「吾等ハ彼ヲ膝上ニ坐セシメ
コトヲ思フナリ」ト^ハ戲^ハシテ時ニ美人ノ顔
ヲ見^ト目^トハツ^ク眼^ハ尻^ヲガ^テト^ク轉^ジテ^イモ
島田ヲミタル途中余ノ顔ヲモカスリ行ク
余ノコトヲ若ガト心中ニ笑ヒ居タル平田
ハコラヘズヤアケレ^シ Sind Sie aus
Deutschland? ト云レ拔ケテ喉^ハテ
ク^ク譯人^ハビ^クツ^クシ^テ Ja, mein freund
ト答ヘタ^ク譯人^ハ平田ト色々ナル程^ハ先^ノ末
「君ハ智ヒテ好ムト云ヒ玉^ノガ^ハ智ヒノ女ハ
如何^カ」平田ハ笑ヒ「女ハ餘^ク美ナルモ
ナレ[」]「吾々ソレハ癖^ハ目^{ナリ}」「吾々癖^ハ目^ハ
アリトクワイニ^ハ無^クテ^ハ合^ヒテ^ハ女^ハ始^メト^リ向^ヒ
ニ居タル一人ノ譯人コトモ智ヒ人ナルガ仲
裁^ハ入^リテ^ハ吾^々ト^ハ人々^ヲ見^ルコトヲ^ハ異^ニ
スルモノナルバ^ハ論^ハ無^クテ^ハ用^ナリト云ヒ^シ

可笑カレ併シ体、美形ハ何處ノ誰ソ
ツ、真美ハ実ニ十日ノ見ル所ナラバ平田モ
家ニ泊リタル後女房(コハ家母ナリ)ニ向ヒ
テ後ヲ後……一人ハ新有ナル別嬪
ナリガ……又モ又ハ惜哉余ハ体ニ
横面ト後面トツ飽クマデ見シモ正面ハ
殆ト見ルコト能ハザリシナリ後、彼ノ好
ハヒレ席ヲ彼等ニ譲ツテ起立セテ
等ハ余ト相對シテ坐セリ然レモ中間ニ
肥大ナル好ビ人ノ居ルバ余ハナホ彼ノ見
ルコト能ハザリシナリ横渡ニ至レバ退
事乗差ヲ減シタルガ美人モコトキ立ツ
去リコロリ車中ニ家々タリタリ大坂ヨ
リ上リタル紳士一行中餘程美人ヲ
コレ余ヲ見ルハ八十五点以上極
ハ肥ヘ退ケタルノ感ナキニ非ザレモ亦
フ艶美ハ驚クベシ彼ハヨク後ヲ後ヲ
好ニ平田ノ両見ガ無心ナル体ヲ見テ
色々話シカケナドセリ七時半新橋ニ着
シ車ヲ降りテ驛ヲ見ルニ義ス中野豊三
郎氏ナリ平田ヲ訪ヒタルガ余モ彼ニ
ニ逢テテ口ヲ温メテバツラビール及ヒ

晩食、馳走^ノ後、手田ハ中野トテ強ク
吾余ハ如母トテ強クセリ。即チ年ハ運子
村、勝地ナル所以テ速ベシト。フノ他
雑行百出、院ニ十時半ニ及ベリ、即チ手田
電ヲ辞シ車ヲ飛シテ家ニ归ル路スガ
昨今兩日ノ景況ヲ想ヒ又昨日有ル等
通事等ノ模様如何ト心配シ難法
ノ様ニ如何ト考ヘ、月返ハヤレ多シ
哉ト小言ヲ言ヒセリ。頭ガガント鳴リ
シヲ以テコレヲ知リ、十一時家ニ着
シバ見ハセニ、様ニ就キタリ。運子ニテハ
北麓シテ手田ヲ經テ下宿ニリヨリ見
バ、タカモ拖柴ヲ取テ地獄ニ至ルニ似
タク仙境ヲ去テ魔界ニ下ルニ似タリ
寛房ヲ去テ乞食ノ屋ニ入ルニ似タリ
儂美ヨリ醜巧ニ入り、出雅ヨリ俗
塵ニ入り、秀麗ヨリ野鄙ニ入ル。年
ハ六疊ヲ、部屋ニ入ルト切レク、男
ヲルキヲテ只長大息シタリ。今十年、傍
ニ羨歎ナレ、今十年、傍ニ山水ナレ、今
十年、傍ニ珍味ナレ。只見ル木ノ新
葉亂セルト、貧乏徳洲ノコトガハラ。

余、悠然トシテ床、就ケバ蒲団ハセンバイ
ヨリ落シテ且ツ汚レ且ツ堅シ。殆ク喜ブ
余、机上ニ教巻、珍書ヲツコシテ他日ノ
快楽ヲ来スニ是レハナリ。嗚呼愚疾ハ
云フマイ。云フマイ。

土月=十六日(月)

今朝ハシカカハル夢ヲ見タツツシカカハル
事實=烈キ夢ヲシテ醒ルハ一ツモリ臆セザ
ル故ニ記スルヲ得ザルナリ午九時オマテ
ダフスト森込ニ目ザナテ屹驚仰天登枝セシ
思ヘド大兩ハサナガラ断ツ所ト降ッル
勢演ズ拙者ハ大ニ引ケテ取ツテ芝ノ冬枝
ヲ見合セタリ支レヨリ兄ニ二十四ノ集年ノ様様
ク尙ニ幸外ニニ好談果ナル由養成スニ
名来リ岸上運物モ面白ク相スレテ冷ク=漁師
アリト實ニ好談合ツシト余モシテ聞ク
大ニ安心セリ雜語ハ如クト肉クニ校正ハ更
持来セズト云ハレタリ余ハ之ヲ聞ク殆ク落胆
シ更ニハトヲモ二十八日迄ニ出来上ルオス
テシテ兄上何トテ警責シテハザルカハ不考
合カランヲ云レ_レモウ依頼申セシニ非ズナ
レテ不都合ハ皆博年ヲ乘編撰人ノ落胆ト
ナルガレト愚痴タリ_レカク口説シテ道理ナラス
ナ余ハ宿題ナル番町ノ計画ニトツカツ正午ニ
及ヒタリ中原定衛先生又ツ入り来リ花会セ
タルバト云フイタリト云フ余ヲ補ヘテ無理ニ
花会ニ加入セシニ二年ノ後勝負ヲ見ルニ

余、全勝ヲ又、全敗ヲ即チ酒肴ヲ争ヒテ
樂シム時ニ日暮ニ至ル頃、年、沐浴シテ食ヲ
終リ、改修居ニ至リテ急遽、罪ヲ責ムルニ何ヲ
問フヤ、校正ハトシ、昔シ出ま、今ハ印刷ヲ終ヘ
タリト告報ヲ得テ、拍子ガ按リ、家ニ切リテ見テ
捕ヘ、コレ一カ減、人ヲナクガゴゴザンス。校
正ト一借シ出ま、トイナ一ト恨タルニ兄モ
復タト云フ、負付、ソレデハ三雄ガ土曜日ノ晩
ニ校正ニタノダロー、オレハ下度居ヲナクガゴト
云ハレタリ、兄、多田徳左衛門方ニ花合セニ行ハク
余、家ニ在リ、画ヲカキ、路邊ヲ勉強シ、一時半
暮ニ付ク、兄モ同刻リヲ来ル、余、兄ニ向ヒ、花
合セモヨクハ勝居、争ヒ出金シテ酒飲ムコトハ
モモ一止マ下サセ。ソレニアノ勝ト一ガ飲ムコト
酒代ハイモナク持テ、ナホ、僅カハデモ積ツ
テ見レバ大ニ金。兄ヤンノ方ハ、ウヒマシテ、ローガ
私ノ方ハ、減額、ソレニ無理ヤウ相手ハ、マ
大チ、速意、ゲヤザンセヌ、ト口説キカクレバ、兄
モ、閑口、女居共、ヤオエ、ソレ、吳レ、モ、モ、ユ、カ
花ハ止メ、一程、ト云ヒタリ。余、昨日、マ、タ、此
雅ニクラシ、今日、後座ニマシテ、不手ノ、カ、カ、ル
ハ、今日、朝、ノ、旗、嫌、ツル、ク、散、々、口、説、キ、立、テ

・見テ困ラセクヲ獲ニ説キテモ子ブラレス、コト下
宿テハ遊ニ勉メテ出来テモナシ、サレソテ宿ヲ
カヘレ口実モナシ、大寺善宗会ハ又コト好マシカ
ズ、幸田ニ居ラレモ面白カズ、出来レトナラ
ザラデ四巻キノヤニマツトシテ御座、一巻ニオレテ
出テ、傷ノ長欠ニ湯ヲサントクガラセテ奇麗
ナ乗直具一式ツノツバニ置キ、ソレテ一巻ニハ
六尺ノ床ノ間ニ日本地圖ヲカケ三火ノ押入ニ
上ニハフト下ニハツラ朝夕ノ掃除行キトナ
ソレテ酒ハ家ニ飲マヌトニ(物ニカク考ル
位ニ説キテナシテモ)萬事整確ニ秩序正
シ朝早ク起テ夜早ク寝 ソレテ一巻ニ強クシテ
見テ、トクテ云ヒタルガイワレカ睡後、カ
歴傳例レテマドコロリ利便三十七五ナ)

七月二十七日(火)

七時起キ八時至授二時宛ス地回ト
孫回ハ暫時至、精進ノ業ヤシタリ四
時頃ヨリ勉強ニツカフ日暮打ノ散
場ニ出カケタク芝ノ本郷通リヲ四丁目マテ
走レリ例ノ通り切通シハト下リ池ノ端ニ
出テ不意ノ地ヲ眺メタリ余ハ教与スルニ
ハ只一人テ行クコトヲ好ムモノヲ羨シハ此
常ハ親友一名ト相伴フヲ好ム世ノ中ニ
ハ六七人連テ教与スル好ムモノモアル然
レ亦如キハ稀ナルベシ余ハ旅行モ好リ
旅ノ好ム二人ハ嫌ヒタリ三人ハナキ嫌ヒタリ
併シ臺中ノ人ト相携ヘルナクハト云フ場合
ハ又格別ト笑レリ至ヘリ途例ノヤク
ビールノ立ヤ飲シテ行ヒ精進爽快ト
ナリ暮シリルハ時ヨリ勉強ニツカハリ
十一時ニ孫ル十一時半散場ノ足ハエト
ノ休マテ十二時宛ハ刺地三十九点ナリ
精進行儀ト云若足ヲ浴ヒ酒食スルハ
中原空橋ト彼ノ女房ノ關係ヲ見ケル
甚ク精進ノ業精進ノ過キル様ナルハ近頃ノ
感服ノ出来ヌラカニナル

九月二十八日(水)

午後七時登キ八時半終接二階後
中村直左郎氏ハ一圓石以當ユリ例ノ
インフルエンザニ罹ラレ休ニ居ルハ故余
等モ一向ニ仕事ガハカドラス達先生ハ馬
鹿ガ理屈ノクラヌ男ガ品格ナイ奴ガ
ハ陰謀ハテ違ハ云ツガイザト云ツト彼ニ無レ
ハ鉛筆ガ動カヌト云フ初始末ナリ正午
沈黙所ハ赴キテ有ル命馳送ヲ五号ヲ
受取ニ時半加電ス長谷部1部次部内
村達此ハ兩足出東リテ馳送配慮ノ手
傳ヒテ為ス昨日飲ミ残シタル酒一合
余ヲソケルヲ馳走セシニ久レブツコ内村
ハサト15咄ラレタル様子ニテ語語虚ヲ
ニ事務ヲ取リシモ可笑シ身態ヲ家ニ来
来リ協力シ事務ヲ執行スル程ニ日
暮ニ及バズシテ累ホ残リ内村長谷部
兩人ハ7時頃セリ以テ和達陽左郎
今泉表一即ノ兩人来リテ宇街上世石
上ノラテラヌ今泉ハ熱心家ノ術ハ
高ク且ツ旅行ヲ好ムト尤モ甚キモハ
一人ヲ夜ニテ小林伊豆来リシガ

間モナリヨル知遣モ直ヤニヨリ今泉ハ
余ト共ニ沐浴シ愉快ナリ長行テテナドナリ
テヨリ支シヨリ余ト家オトハ豊国屋ヘ赴
キ(コロリ先中流極死ヘ立ヤ青ツ *begeflens*)
テ方覺、飲食ヲ行ヒ支シヨリ直ヤニ四丁目
ノ伊勢判ト云フ菓子店ヘ登リ酒トトヤ
トドンブツヲ飽クマデニテヤリタリコニテ家
オト色々面白キヲテテテナセリ余ハ
家オトヲ信用シ居ルナリ又家オトハ余ニ服
居ルナリ是故ニ西人ノテテテハ常ニ田滑
シテ興味アルモノナリ家オトハ余等兄弟
中尤モ余ヲ信用シテ家オトヲ信用セザ
ルハ実ニ難クスベキコトナリ余ハ家オト
ノ一振ノ信ヲ家オトノ上ニ置カシムルニ尽ク
スベキ由ヲ語リナドセリ尼テ今夜ノテテ
ハ至テ内輪ルテテナリ支シガハ
余等ハ喫ニ染ヒ多ク酒ヲ飲シタル
ナリ何サマ酒ハ興ヲ添ヘ興ハ酒ヲ
添ユ両者ツンクトコノ関係ヲ延長スル
ニ由リ果ハ棒落ノ底ノ按ケル迄興
タルアゲ句ガ却テ興ヲ醒スコトナル
コトハ今夜ノ場合ナラズモ余ハ云フ置ク

十一時凡火雨ハ例々ノ車軸由然
ルヲ以テ三錢ヲ投テ"豚車"ノ儀ニシ
テ"川"ノ儀ニシテ"川"ノ儀ニシテ"川"
書テ十二時半迄ニ就テ"明後日"ハ式
ノ儀ニシテ"汝何トテクク不知"ノ儀ニシテ"汝何
余ハ"ノ儀ニシテ"元氣"ノ儀ニシテ"養"ノ儀ニシテ"食
然"ノ儀ニシテ"ソ"ノ儀ニシテ"宿醉"ノ儀ニシテ"洗
元氣"ノ儀ニシテ"ソ"ノ儀ニシテ"推量"ノ儀ニシテ"實
ノ儀ニシテ"心"ノ儀ニシテ"心"ノ儀ニシテ"心"ノ儀ニシテ"心
又故"ノ儀ニシテ"一"ノ儀ニシテ"一"ノ儀ニシテ"一"ノ儀ニシテ"一
其"ノ儀ニシテ"其"ノ儀ニシテ"其"ノ儀ニシテ"其"ノ儀ニシテ"其

五月二十九日 (木) !

明日ハ余、怨敵余、仇敵余、障礙
 余、裁判人余、責道具余、恩人余、益友
 余、知人余、親族ナル 数学ヲ試験
 フコト試験ガスムナキ余ハ 数学ト縁
 ヲ切ルツ余ハ 数学ヲ離別スルヲ余ハ
 数学ト絶交スルヲ余ハ 数学ヲ排斥スル
 ヲ然レモ余ハ 常ニ 数学ヲ余ハ 顧問ト
 スルヲ余ハ 常ニ 彼ノ 助カフ要スルモノナリ
 明日ハ 彼レト離レ 戦ヒヲナシ付テ余
 日ハ 午前ハ 當ニ コモリテツノ 準備ニ 違テ
 午後一時半、石 在 授 再ヒ 帰宅シテ
 但ク 準備ニ 急ラス 然レモ 久シク 授
 テ 置キタルコト 故 刀ハ 折レ 矢ハ 裂ケ
 戰場ニ 出ダスル又 有 振ヲ 由テ 日暮、七時
 小室 午次郎トモツ 鍛冶屋方ニ 行キ
 鏡、刀、ナシ 鑄ヲ 天晴、鏡ヲ ナシ
 走リヨリ 又ツ 磨キ 上ケンガ 数学ヲ 行ヒ
 田中 所ツ 不在ナリ 由テ 當ニ 引リテ 又、
 キレ味ヲ 試シタルニ 内村 達次郎氏
 来ララス 余ハ 明日、激戦、コトヲ 知シモ
 先ケズ 從業トシテ 其ニ ビールヲ 飲ムケ

五月三十日 (金)

今朝ハ六時ニ起キタルモ八時ヲテ獲ク
九時區中署迄ニ赴キテ知彦、山下等ト共ニ
数学ノ研究シテ及ベツ午前一時ヨリ宿
験ニ臨シタルガ成績ハ中等以上ナリナルベシ
余ハ多ク躊躇ナルヲ知彦陽ニ昂トス男ノ力カ
ヲ得タルナク彼ハ非常ニ寡オウラ一ノ固キヲ
クニ知ル就中数学的ノ思想ハ彼ニ之ガ
發達シ居リ若シ中等ニ居ル時ヨリ常ニ一ノ
点ノ宿験ノ評点ハ一ノ平均九十点以
上ニ達シ中アリサカモ八十点以上ト得シツカ
之性洒落ニシテ新敏人ノ舊クシ意匠ニ富ミ筆ヲ文
才ニ長シク但シ豪放奇抜蒸阿剛毅ノ性次
キタルハ惜ムベシ彼ハ明治元年ノ生ニシテ静岡ノ
人トシテ身体強壯ナラズト最運動ヲ好ミ又テ繪画
ヲ能クシ筆法亦拙カラス併シ彼ハ人ノ上ニ立サテ
指揮スル能クシ學ノ身ヲ周施シ働カス方ナル
ベシ信ズ今日彼ノ成績ハ九十点内外ナルベシ
余ノ成績ハ八十点内外ナルベシ思ハル四時半家
ニヨリテ休息ス内村達以昂氏来リニ礎トテ考
シカ刻ニシテリヨルニ雄ハ去ル用アリテ本郷
元町マテ行キタリ身後ヲ留ル固テ余ハ涉川氏

コイ依頼 3度ケタル書物ヲ終リタル後
花会セシ如ク全勝ヲ得例 如ク酒酌
ト酒トテ命ス 兎ハ微醉ノ体アリ来リ
聞ケバ今日赤十字社 (山田、豊見、欠島、山)
山田身丸、江原銅、三ヶ所ヲ行ヒトツ
兎ハウチ子セシ間ニ余トテ酒一飽キ
余ハ西日記ヲツケテ歳ニ就テ判決四十
点ナリ

五月三十一日(土)

八時起十九時登校 正午ヨリ甚家学舎臨
時大分・臨コト思ヒシ・暴風雨 為ナ学
サレテ中止セリ、十田切、長峯部兩人入り来
由テ四方山ノ難行をニ時ヲ得ス、ナガテ是五
謙一即氏来行方スオ、發議ニテ(付ダト云フ
余ヲモカヘテ花合戦ヲ攻メタリコノ時長峯
部、十田切 相次テ来リ。合戦ニシテ年
間ニシテオハ全勝ヲ得 例ニヨリテ「ゴール」
四本ヲ化負ムク余ハニシテ年ノ戦ニ大ニ月凶ヲ
費セシラシテ大ニ不平ヲ鳴ラシ 去年試験ニ
関近キ・花合戦ハ尙如見合セテ賞ヒタル余
ハ未ダ自身ヨリ發言セシコトナシ余ハ實ニ之ヲ
好ムモノニ非ズト 苦リキツテ云ヒタルニ「兄モ来
月ヨリハ止メト云ヒヌ日暮 弟ト兄ハ「駿」イ
ヘ行リ余ハ「おフレ」来案田中苗左郎氏ト
世間ヲ出ラヌタルガヤ、興アリ。七時
半退キ田中ヨリ兄モ「體」ヲ得ル余ハ客路
ナル所、言画ニツカ、ツレガ十一時ケシ迄
ニ至ラヤウキヲ終ニ支レリ今且長島藩左
郎ガ人ヲ以テ送リタル建築史ヲケシ斗リ
讀ニテ快ク 擧ルニ判決三十八点ナリ

六月一日 (日)

今日モ徳家亭毎晩時大亭ナリ今日ハ大表ハ景
園ニ於テ立食及ヒ餘興アルレバ余ハ午約六
時半起キ出テ直シニ食ヲ終リ車ヲ罷テ新橋ニ赴
キ辛クテ間ニ合ヒタリ余ハ今度六枚錢ヲ拂ヒ
テ乗車シ符ト徹章トヲ請取リテ下等列車ニ乗
リ此ハ大表ニ~~〇~~テ下車セリ見バ學生ハ餘ノ外ハ
山下、石井ノ両氏在リレバ~~〇~~ハ景園ノ上ニ登リテ
見バ余カ数年ヲ見シハ非常ニ相違ニテ園内
ニ雅ナル休息所アリ運動場アリ實ニ完全
ナル一大公園ノ容トナリ加之庭房ノ山々
ヨリ昆川湾ノ蒼波ヲ眼下ニ見下ス風景ハ
中ニ拙キ筆ニ尽カス錢ケ表ノ磯馴レ松
ハ相カハラス~~〇~~風シ大表村家ヨリ立テ
昇ル煙ハ依然トシテ空中ニヒラヒト舞フ
時々~~〇~~ト響クハ流笛ノ声ニシテゴウゴウ
ト鳴ルハ列車ノ軋ル声ナリ白イガ帆カケ帆ヲ
舞イテ空ヲ、藍ナスハ海ヲ、緑ナルハ田圃
ニ茂林、ソノ外ニ~~〇~~ト斑紋ヲソノ出セル
模様ハ人家ニシテ不規則ナルタテヨコノ
竊ハ道ヲ辭ナリ上ニ登リ鹿野山房内、
鋺山ハ手ニトル女ヲ目前ニ俛ヘ上ニ臨武死

ノ平地ハ界限モナク廢ガリテ地平線ヲ畫セ
テモコトハ東ノ方ヨリ東南ヘカケテノ眺メヲ
西方ハ土手ノ狭キニテ更ニ眺メハナレ余ハニ
ノ小敷ナル眼ヲ張ツテ四方ノ景ヲ眺ムルニ
餘念ナク折シテ、コレハ伊東學堂ト呼ビ
カクルモアリ、吾々見カレバコレ別人ナラス、下
條政雄ノ長男同苗菴一即ト云フモノナリ
余ハ彼レガエテ學授ヲ卒業セシトテ聞カレ
バサモコト打テ笑シテ、後先ノ續ケテリ余ハ
彼レガ弟虎次即ノコトニ付テ彼レ忠告セリ
ルハ虎次即事昨年高ガ中學ヘ入學セシ
ニカワラス、弟ニ同校ヲ退キテ実業ヲ営
ムト在テ試験ナドモ等用ニスルコトユヘ余
ハ大ニ憂ヘテ彼ヲ諫ムルハ兄ノ職分ナリト
陳述セリ。菴一即ハ余ノ深切ヲ射レ且ツ
虎次即ノ性気粗暴短慮ニテ俠客ノ風
アリ學ヲ好マザルコトヲ告ゲ余ニ請フニ彼
ヲ切諫シテ學事ヲ修メシムコトヲ以テセリ。
余ハ又東學堂ノエラ無暗ニ主張スルヲ
ラス然レモ下條ノ如キハ徒ニ學堂ノ好マザ
ルモニテ必竟粗暴心ニシタルニ別ニ大
ナル痛望アリテ學堂ヲ厭フニアラス、故ニ

余ハ深ク之ヲ惜ムノ餘ヲ頼ルモセヌニ彼レ
カ一身上ニ就キ筆ヲモルベキ流シヲモ爲セケ
リ。又余ハ彼レガ往日筆ヲト云フ男ト唯唯及
ヒタルコトヲ知リテ彼ガ粗暴ト無氣カトヲ非
難モシナリ。彼一節ハ余ニ向ヒテ如何ナル人ガ
真正ノ造家歟ニツ得ルヤ? 余ハ如ク若モ一
箇ノ大家トツ得ルヤト云フ余ハ然リ君トモ
僅カナリ得ベシ然レモ造家ハ一様ノ造家
オト要スナホ文オ詩オ画オ如レ若シコノオ
アリテ學術ニ長セハ眞ノ大家ニツ得ベキモ
オト學トツラ欠ケバ完全ノ大家ハナリ難ク
ラツト若ヘタコノ下條ハ余ヲ深ク信シ余ヲ
頼ムハ心ヲ生シタト見ヘ一身ノ方向ニ就テ
相違ヲ仕カケタリ余ハ彼レガ實カラテ試ムル
處ル幼キ時ナリ由テ大學ヲ肄業シ入學ス
ノ利アルヲ覺ケシニ彼レハ米國ヘ渡航スル
便ナラシメテ云フ余ハ彼レノ説ヲ全ク排撃セ
ザリレ然レモ全クハ納レザリシ余ハソノ義ニ就
テハナホヨリ考フベシト云ヘタリ彼レハ米國
建築學士ノ称号ヲ望ミテ斯ク云フモノレテ
之モ至極ナル事ナルガ彼レハ學カモノク資
カモノレ又ソコマテ活用スル人物トモ見ヘタリ。

コトハ一同ハ野遊ヲ始メ奢矣上ハ博キリ
下ハ左官、石工、材木屋、マブーヲ誦イヨヒ返
リテ遊ヒハ匠匠、愉快ヲ九時半迄華々
供シ次ニ(廻)松、芥子、手品アリ天一ハ
黒飛砂、燕尾服ニキリッセル帽ヲ戴キ黄
色ノ時計、黄金ノ葉カザリ、黄金ノ指環ヲカ
バツル、白ハ一癖アリテ八字髻、羨シク生ヘタ
リツ、装ヒハ勅任官ト見ユルヲソノ癖、辨
舌來カニシテ、廣街ノ輕スベカラザルヲ希シ
ル演説中々ニ巧ヲシテ、彼ノ娘ハ十六七
歳ニシテ肥ハケレヒ、吊ヨリ令嬢然ル
風度アリコレモ上等ノ洋服ニ身ヲ装ヒタリ
手品ハ別ニ習クベキ程ノトナレ九段坂、
上ニテ興行スル大道手品ト大同小異ナリ
只コレハ仕掛ノ大袈裟ナルヲノミ手品
終ハ落テ去アリ一人ハ客ヨリ難題六
ツセテ賞ヒ即席ニコレヲ大津彦ニ授ク
ニハ、奇オアリ一人ハ俳優、假声ニ妙
ヲ得タルモノナリ落テ去、趣向ハ別ニカワリ
タルモノナカリキ右ノ冬ヲ立食、饗應アリ
余ハ、ピーロト料理トテ喉マデツメニ
テ大ニ満足セリコノ時、幹事片山東熊

氏本會、由來ヲ速ヘ弄ビニ争員一同ニ謝辭
ヲ速ヘ天皇陛下ノ萬歳ヲ唱フ次ニ東渡
渡也波基氏ハ人ノ需用ハ衣食住ナルト
住ハツノ中尤モ衣食ニシテ事業ノ英風雖ハ
住ニハ实用、美觀、堅牢、ミツク備ヘザルバ
カザルコト衣食ハコノ点ニ於テ住女ハクナ
ラザルヲ等ヲ速ヘラレタリ次ニ西村友吉氏
送家奉會ノ隆盛ヲ祝シ送家奉會ヲ祝
ヲ唱ヘタリ次ニ辰野金吾氏争員一同ニ代リテ
謝辭ヲ速ヘラレタリ又ハ又ハ意
意ニ遊戯ヲ始メタリ遊戯ハ打球、輪投、
蹴鞠、綱引、トランプ、花合セ、等ニテ
一盃持婦ノ後ハバイブルモ喫ニ乗リテ
狂ヒタル宴ニ氣ノ刺タルハ場内ニ團子、若
天麩羅、湯割、店ヲ出シ争員ヲシテ應意ニ
食ハレタル一帯ヲ、三時ニ至リ再ヒ手品
ヲ執行ス天ノ動物取り寄せ、水出し、
七八藝ハ大人ヲシテ驚歎セシメタリ、天
一ヘノ報酬ハ金四拾円トゾ聞ヘレ六時
ハハカ祭ノ旗車ニテ大鼓ヲ奏シテ東京リカ
リ家ニ着シタルハ七時三十分ナリ余ハ
久レブツニテ運動ニタルハ身体大ニ疲シタル

ハ暫時休息シテ夕食ヲ終ヘ沐浴シテ心
地ヨキコトヲ良クナレ即チ新聞ヲ読ミ且ラレテ
恐クテソレニキ^ル然クオチオチ家ニ泥酔シテリヨ
宅ス家ニ泥酔シテ特殊ニ徴候ハオ^チ一^ツ 蹠
跟トリア足元定マラザルトオニ始終無
言ニテ眼ヲ閉ゲナガラ寝床ヲ布^ツコト (片言ナ
ガラニ物云フ片ハ大醉ノ部ニシテ泥酔ニ至
ズ) オ三無音ニ^レ痰ヲ吐キ散ラスコト量レテ
見ハ殆ト毎夜大醉シ或ハ泥酔シテリヨルハ大
通白カラズ相争ハ中原、行徳、石橋ナドニ
アラン乎又山田等弘ウラフ片ハ必ス泥酔シテ
リヨルコト然レニ迫リテ酒ヲ求ムルバナリ。年ハ足ダ
他日酒ヲ為^シ自^レ身^ノ損^ト云^フハ大事ヲヒキ出スコ
トナキナク^ル慮^ルナリ然レ^ニ年モ^テ僅^ク酒ヲ飲ム
コト故ク強ク諫ムル^ニ足^ルモ^テ行カス。サテモ困
リタル事共ナク故郷ノ父母^ノ表^シコ^ト有^リ様^ヲ見^タ
ランニハ且ツ驚キ且ツ怒リ且ツ悲^シ且ツ恨^ミ
果ハ母上ノ紅涙^ヲ潜然^トタ^リコト鏡ニカサテ
見ルカ如シ。余ハ近頃泥酔シタルコトナシ
間々微醉スル^ニシ^テソ^レヲ^ス余ハ自ラ深ク耻
ゲ居レリ家兄ハ自ラ何ト思ヒ居ルコトニ一^ツ向
ニ念^ヲ点^ガ行カスナリ。ソレハ兎モ角ニ近頃ハ

家兄ハ曰く「酒ヲ好ムト同時ニ曰く「酒量、減ズル
一、事何ヨリステ心カバツツ。余ハヤウヤウ
癪レ愈ヘタルヲリステ明月ヲ賞セシメテナリ
戸外ニ出テ興シテゴトト散歩ヲ始メタリ。

而シテ足ハ自ラ本郷通り切通レ坂ヘト向ヒタリ。
コレハ家ニ奇好ナル事實ニテ余ハ戸外ニ出ヅルナ
否ヤ足ハ必ズ南ニ向フ習慣、カモホ大ナリト
モバシ。例通りビールヲ五杯飲モラ仕ラシ
ト胃マデツキカケシテ辛クシテ我慢セシ余
ガ囊中貯ナキニハ兆ズ又余ガ胃ニ空地ナ
ニ兆ズ余ガ精液之ヲ好マザルニ由リ余ハ
只ク無理、我慢シクルノニ余ハ切通レノ
坂下マデ散歩シリ歸途本郷五丁目ニ至リ
テ余、我慢袋返ニ耐レシテラビールヲ
飲シタルグ淺マシキ。余ハ一壘ノ節ニ
ビールニ精液大ニ爽快トツ快ク月ヲ
賞シテガウ家ニ歸リシ頃ハ十一時ニ近クシ
即ハケ思ヒ切ツテ豫メ決シテ判決三十点
今夜ハ此度面白イ夢ヲ見ルヨ。

六月二日(月)?

昨日ノ浮レアルモ似合ハズ今日ハ割合ニ早ク
走キ外ニ云フカラ何時外ノ間ヲ見ル七時半ダ
ト云ハレタ時ト一僕モケト伊東朝彦ニ警イ
クナート誰カガ読レトゾ併シルハ警イク方人
ガ驚イダ何故ト云ハ余ハ人ヲ警カサガ為メ
ニ朝彦ニ非ザレバナリ。嗚呼余ハ人ヲ警カント
セザレド人余ヲ警ク余モ亦英雄ナル哉ト或ル
時口走リタルヲ巡行ハ巡査ガ聞キ告メ五錢ノ
價直ガアルクヲツケヘ来玉ト云フ余ハ大笑ト
然レ余ノ言ハ價直ヲ中々五錢位ノ讀ミヲ
ズ然レ五錢トハ勤定ナラバ五錢ヲ拂ハル
人ノ名言金言ヲロハテ聞クハケト大胆過ギル
様ナリト一本頭上ヘマイルト彼ハ呆レ果テハ
閉口スルト思ヒ外何カダグムトツブヤキテ浮
明カザリシコトアリ。山下ト云フ余ノ朋友ハ大砲
然ナル大屁ヲ放テ人系シ之ヲ各ルレバ一向平
氣ナリ汝ハ人ノ折角放ケタル屁ヲロハコト喚ガ
トハ大胆ナリ少ト喚錢ヲ出ヌコト煙管ニレツト云
ヒレモ余ト同一ノ奇法ナリ。世中ハ奇法ヲナク
ハ渡ルズ世中ノ路ガ平坦ニ正シカラヌト社
ハコト渡ルニ奇法ヲ用ケルベカラザルハ一尺ノ嬰兒

ハドおれガソヨ借ルツルニソレハ自宅ニアツト云
ハレテ非テ失望セリ三十分の時ヲ世間ウチ
ヲテ客シテテマツラ休息スレハ夕食トツ食
終ルバ日暮ル近頃ハ日が長キニハ合
ズ日中ノ時石ガ餘リ多カラヌ採ルニ見
ソレニ又夜ガ実業ニ短キ見ユルナリ
サレバ余ガ食後休息ノ後客舎ニ出シ
セハ時ニ迄カクナリ余ハ本館通リヲ付
キタル頃北方ニ夕雲走り電光ヒラキ雷鳴
トノキタルモ南風吹リテ雨アルベシ
ハ思ヒモオラスト通シ上マデ行キテビ
ヲ飽ルニテキコシ花ノ匂ニ誘ケテ又南
風ハ突如トシテ北風トシテ大粒ニシテ一
ト天文ノ儀アル大雨バシクビレビシトテ
りまり雷鳴トノキツク有様実ニスサマシク
朝貞ガ大井川ノ段モサツト思ヒタル斗
余ハ家ノ轆下ニ雨宿リセシニ同シク雨宿リ
セル男女アリ併シ昔シテ知ラズ、女ノ雷ガ
粹ニ草々ハセズ余ハ空シクソノホリト立サ
ル身ニ濡衣雨宿リ中ニ是ゾト思フ長ク
ナケレバ長ク思ハルト云フ拙者デモナ
シ(オヤ?)余等ノ望ミモナルハ通行ノ車

テロビ大ニイ四銭ヲ振テ家ニダイ儀ヒタリ九
時家ニリヨリシバテクハ日イビヲ後シ又日
ヲルソリ中ニ雨ハ霽シテ月光清ク滿地
ヲ照ラシタル其景色實ニ非常ナリ。余ハ、カ
ワリ易キハ秋ノ空トハ詠リカツ易キハ春ノ
空ナリト云ヒシヤル時足立謙一郎ハ眞面
白ニテ、吾レ君ハ末ダ彼ノ護ノ眞意ヲ
知ラズ。葦湯キハ秋ノ空ガ本トナリト云
ヒハ何トマ一野暮ノ頂上ナラズト余豈
彼ノ護ヲ知ラザラニヤ彼レ余ニ現クハ
所謂釋也ト更法孔子ニ匪徒ナドト自慢
ハ禁物ナリト合点。十時四十分發
就リ判決二十点ナリ

五月三日(火)

午着六時四十分起キ八時迄接スコト次ハ
朝ハサツモ五時ニ起キ八時迄一仕事ヲス
ベキナルニ其ノ朝寤スルノ実ニ日月モナク亦
ニ内坐ル。正午ニデニラ切ッ上ケ家ニカッテ
起テ浴セシテ食スルニ食後眠氣ヲ催フテ
甚ハ難シ余ハ我ニモアラストロト目覚リガニソ
ヲ下女ノ掃除スル音ニ目醒ソタリ覺キテ時計ヲ
見ハバニ三時半ナリ余ハ常ニ家ニ居テ計ヲ
考ヘテ終ニ夕食ノ刻ニ至リ食後見ハ山
田方ニ余ハ平田方ニ赴ク余ハ平田方ニ行キ
テ見ハ平田ノ両見ハ相ウラス運動場ニテ
遊ビ居ルヲ依テ余モ兩見ヲ相手ニ三十分許リ
運動シ家ニ入リテ母ヲ訪フニ西人共ニ
不在ナリ余ハ折角来リコトナレバナリ待タシ
テ本朝画人皆ナドヲ見以テ兩見ノ本ニ
座シテ鳥取繪ヲ画キナドセリ八時迄待テ
タレバ母ノ如ク景色ナレバリヨラントスルニ
兩見ハ余ヲツヘテヨク画ヲカキテヨク物
語シテヨク要求スルニ是レナク又テ刻待テ
ルガ果シテレバ終ニ家ニカッテ八時四
十五分ナリ余ハ暫ク休息ノ後再ヒ起テ

出カケタリコトハ 明月是々タル月ノ愛モシカトツ
リ余ハ先ツ本ノ通リヲブラツキ切通シ坂ニテ
ハヒコトツキコトカシ勢ノ衆ニテ不忽地畔
ヲメグリ上野予公園ノ樹ノ間に登リテ 明月ヲ
愛シタルニ 余ト同感ノ人ニテアラシ月影ヲ
ニ身ヲ寄セテ尺ハフ吹キナラシフハアリソノ声如
何ニモ優美ナルニツ余ハ先ツ一箇ノ風流男子
ナラシ想ヒ近ヨリヲヨク見ルニコハソモ如ク
月下ニテハ人ノ顔ハ白ク見ユルニサヘソノハ
暗黒ナル顔色ニニキヒトナラバガト多ク
ウゴモク未ノ刻ナル單衣ニ三尺帯ヲ巻キツケ
タル有様書生トモツカズ職人ニモ似ズ將
ク又商人、官吏トモ見ヘザリシ余ハ俗ガ風
体ノ下等ナルヲ見テコリ尺ハノ音モサニ
面白カラズ 公園内ヲ詠吟ニテ漫歩シ
ル未リ風金ニ訖キタリ余ハ今日電光火石ニ付
テ面白キ計算ヲナセ即チ燈亮ノ強サハ
燈深ク離ルルコト十六間ニシテ今夜十四
日月ノ十時頃ノ光ト均チナリ即チ月ハ地
球ヲ去ル九万六千哩トスレバ月ノ元素ノ光
ハコト場合ノ光ヨリ百六十一兆八千〇二十九
億倍ナリ又大燈籠ヲ去ル一箇ノ光ニテハ月

リ明月キコト二百五十余倍ニ屬ルツリ及至
大ニ空腹ニツシガ久シクニコ (イロハ) 牛乳ニ
入リ飯ヲ食フニ飽ヘタル所トア大ニ美味ナル
ヲ覺ヘタリ。ガ誰尼ノ嫌アルニ。余ノ傍ニ
腕ニクツカラノ大職人アリ衣ハ臍ニ油ハ臍
カヲ主張スルヲテコ書生アリ余ハツ見テガ
ト窒息シテ死スル程ノ嫌惡ヲ生セシツ。余
ハ満腹ノ体ニテナ一吋迄キ归宅ス兄モト
テ归宅セリ。余ハ今日ハ笑ニ全ク絶依セザリ
シ然レ今日ハ笑ニヨク運動カシ適宜ニアルコト
ヲ取リ適宜ニ食ヒタリ余ハ今日一日ニテ
餘ヲ身体ニ健ニツタルカ如ク感スル
ナリ。サキニハ臍即尺ハツ吹ケドモ余ガ
厭ハル彼ガ心ハ慕フベシ彼ガ姿ハ
厭フベシ。ツハ心ヲ取ラザル。ツハ姿ヲ取ラ
ザル。彼ハ姿ハ一目ニテ知ルベシコレヲ厭フ
誤ナレ。彼ハ心ヲ推スベカラズコレヲ慕フ
即ハヤ危フシ。余ハ寧ロ彼ハ姿ヲ厭フニ
レガ心ヲ疑フ然レモ。人ノ明月ヲ愛フ尺ハ
ヲ吹ケト云フ事實ノ高尚優美ナルヲ見テ臍ニ
ナク刻決ニ十點ヲ得テ十二時迄ニ就ク。

六月四日(水)

午七時起中八時を授五時半帰宅
ニ園画ヲ引六時食ヲ終ヘ又ト共ニ数
寄出カシ中系友協ヲ訪ヒ花拾ニ基
カカラス中系トモ隣々余ハ中ヲ得足全致
セリ例ニ由テピーニハウスニ至リど一及
日本酒ヲ傾カシ後酔ニ至ルトス時正
九時半ナリ余ハ翌日揚ヲ調ヘリ日路又ト
ニ一ナ蒲焼屋ヘ上リ鮎及鯉ニ飽祖
ワ遊カシ飲酒ヲ行ヒシガ為ニ終ナ
爾後町スハニ至リ十一時帰宅ニ直ヤ
後ニ現ニ判決ニ十点ナリ

六月五日(木)?

午前五時ト云ツト滅法早イ様ダガイ并
 コノハ太陽東天ニ昇ルベニ三羊世ノ中ハ明
 ナ白々併シ余ハ昏々暗々床中ニ熟睡ニテ
 怪シ夢ト云フソルコソ怪イ様ダカ実ハ
 妙ナ夢ト云フテモ變物ダト云フヲ思ヒ切ラ
 灵妙ナル瑞夢ト云フソ瑞夢ヲ見テ居ルワ
 勿論家ニ起ラ僅カラク横着者ニ後テ果報ヲ
 待ツ。余モ僅カラク横着者ナリカレトハ云ヘド
 モ余ハ充分ニ太陽ニ對シテ申シ識ケテ致シ様
 アリ余ノ朝寝ヲウケカト排撃スル飛ニダ
 目ニ逢フカラマシク考ヘ玉ヘ。丁度ソノ
 五時ト云フ時絶ア久シク奥州白石町デハ
 ナイ白石虎次郎ト云フ張子ノ虎ト云フ風
 ニヨコヨコ先生何ト思フタカズラト入リ
 来リテ二日酔デハ心地ヨク寝タイル人ヲ志
 慮モナクユテ起セ。見ハレテ起キタル餘
 ハ狸ヲフカフ空後セリ。白石ハ今迄医
 術向業試験前期ノ免狀ヲ得ルニ付
 ナ何ガ借娘シテユラハララスト見ハ明日
 故郷ヘハ歸ルトテ違ヒニ来ルハツツ。彼
 以直ヤ知ル余ハ夫レヨリ夢ノ見直シト云フ

七時起き八時登校 西午ヨリ博覧會へ
 行ッルハ 戻返=限リ ロハデ見セルト事
 =テ 教授=引キツラレテ 學生等一同ニク
 リ 込ミタル 次ヲニテ 馬鹿 < レカアレハ
 七鐘ノ 儲ケト思ハフ 黙止ニ 難佳キハ人情
 ヲ 場内ニ入ル 學生等思ヒクニ 分レテ 志
 ステハト 勢リ失セタリ 余ハ 牛馬羊 錫ノ 類ヲ
 精シク 見テ 珍言ガ フ言ヒ 毒人ニ 笑撃事ト
 思ハセタリ 支レリ 勢大勢七 本館ヲ 欠
 ルニ 地産地産上ノ 出品 甚ク多ク 殊ニ
 尤モ 余ヲ 喜ハセシ 非第ニ 明ニ 地
 同 頃カレ 余ハ 凡ノ コトヲ 知レル

山名	高さ in meter
西吾島山	1960.
大日岳	1930.
家形山	1575.
飯豊山	1910.
旭岳	1875
瓶王岳	1830.
月山	1860
彦坐死山	1200.
盤梯山	1780.

富士山 3765. 御岳 3195.
 赤駒岳 3170. 赤石山 3165.
 北岳(白根) 3095. 八岳 2980.
 立科山 2595. 浅石山 2486.
 日光山 2465. 駒岳(四) 1340.
 二子山(四) 1050. 飛騨山 724.

等々又胎児及子宮等モ亦見ルを得タリ
 (但シハ婦人ニ見セズ) 又四ツテツラツル
 ト廻ル内直水、山下、河合、三人ト逢ヒタリ
 其ニ巡覽ヲ終リテ一同公園内ノモトヨ
 キ茶店ニ集ヒテ膳ヲ食シ夏期休日中ノ
 旅行徒ヲナス中々打テ復ツタルヲ
 計リテ又四ツ思ヒクニ帰途ニ就ク。余ハ
 帰宅後食ヲ終リ峡谷スルハ日將ニ
 暮ントス例ノ通り散步ニ出ケテ白石ヲ
 訪フニ殊ハ考送クニ違ハレ余ハ彼
 ニ抱スベキモノアレバ再ヒ暮リヨリテ
 是日画キタル美人ノ圖及ニ画ノ書面
 ヲ封シテ白石ヲ訪ヒ之ヲ抱シ四方山ノ
 境隈ニケル内丸去屋去ニ即トテ若
 夫婦連レテ来リシガ彼ハ余ノ見ル
 ズ余ノ書翰アルヲ見テ白石ニ向ヒテ忠告

様ハ来リ玉ヒシヤト云フニ白石ハツル
ソコニウ坐ルガト著ヘシニ彼ハ大ニ驚キ
急ニ坐ラ下リテ低頭平身ニテ示儀ヲ行
今デバツニ下ラヌトテ言ハレテ大ニ
言華打ナクナルハ可笑カシレト時四十分
ノ電ス途中ニドールヲ化員ケシ知ルベ
併ニ一向ニ効驗見ヘヌハ不思議ナ
此ビ次ハツルイ癩カ付カルゾ每晚散
布ニ出カケラハドールヲ傾ケテ三時
ト十錢トテ添敷スルツヨ併ニ打ヒノ
書生ナドハ學授ノカケハドール屋ヘ寄
リテ女ニ戯ルル時々ニ日酔スル程
飲ムヲ例トスニ云フクニスバ好シノ書
生ハエタイ物ナリ余ニ送ライ者ニナレガ
毎日ドールヲ飲ムヲツラシドールノ
為メニ送ラケルヲ知ルベシト一時半
後ニ就テ判決ニ十二點ナリ

六月六日(金)

今日ハ六月六日ナリ、然レ今日ハ本月本日ナリ本月
本日ハ一生ノ中ニ度トハ逢ハラスイザヤバ
思ヒ俛ニ樂ミソ。何カ身樂ジ? 酒カ?
一エ、餅カ? 一エ、肉カ? 一エ、學カ? 一エ、
藝カ? 一エ、書カ? 一エ、画カ? 一エ、女カ? ……
マ、ドコイ、一エ、金カ? …… 位カ?
カ? …… 成程、…一エ、齒カ? …… 中ノ吏シハ
何ダ? 何デモナリ、人ヲ馬鹿ニシ居テ。

午後六時ナリ爲宅ニシテ飯ヲ終ル。貝
例ノ熱心哉令泉嘉一即君押シ寄セ来リ。
糖ヲ三宅達先生ニ奉送アリモ有益ナ
リ。此ノ教訓ニテ三宅氏ヨリ今泉ナル
者ハ、此ノ三宅ノ博學居士ニ感歎セシサ
モ、ルベシ令ハ七時半今泉ト共ニ散步ニ出
カケテ保町ヨリ丸股坂下ニ出テビニ
一エヤ飲ヲ行ヒテ微醉ナル。ソコテ兩
雄ハ互ニ己ノ心情ヲ吐露シタルモ天候ハ
輕クシク瀟々トナリ。思ハセ振ル大言金言。
名言戲言諧謔詩話、余ハ宇宙復理ヲ
究メ尽シテ眞目セント云ハバ出者ハ六合ニ英
名ヲ表カシテ満足セシテ養ルナリ者。サリ

トハ恐ロシ兩君ナト或ニ書生ガ振リカヘリ
見テ在ヲ○フルイ。余ハ今泉ヲ本ハノ豊岡
ニ招待シ西内ヲ食リ快談ヲバケタリ。今
泉ハ學友ヲ集メテ天ノ海ヲ交揮ラ主人ニ
會ヲ創立セシコトヲ榮澤シルモノ組識ニ
就テ余ト復ラ異ニセハガハノヲ行テトナヌ
直ニスルハ今泉ハ熱心勉強ヲ迷レモ
義ニ集ル心ナク又タ一身ヲ仁義ニ委ヌ
ル積心ナレ彼ハ人ト交ル利己主義ヲ取
リ友愛ノ情至ラサナレ彼ハ朋友ヲ目
トシテ別スル一異域トスルモ己レハ
爲ニ堪サレ、愈尤モ少ナシ。彼ハ學
理ヲ好ム。彼ハ膽力ナシ。彼ハ大食ヲ
惜哉彼ハ公明正義ハ心少ナシ。余ナ
共且ツシカニ正々ノ君子ハ彼ヲ何ト
云ハシ。家ニ歸リテ一時獲此ノ見
ハ夜席(肴付)ニ行キ歸途ニ杯ヲ化
ムテ歸ル 判決二十一点ナリ

六月七日 (土)

成程見れば今日ハ土曜トテ世ニモ名
高キ日曜日ノ前日ナリ。土曜ハ遊ブ
ベシ、何トナレバ明日日曜トナリ。日曜
ハ遊グベシ、何トナレバ休日トナリ。月曜
ハ遊グベシ、何トナレバ日曜翌日トナリ。
火曜ハ遊グベシ、何トナレバ月曜ソレハ日
曜翌日ナル所ノ月曜、翌日トナリ。
コレコレ又シテモ馬鹿ノ事ヲ汝ハ堂々
天下ノ學生ナリ。汝ハ他日社會、上流ニ立ツ
人ナリ。汝ハ社會ノ指導者ナリ。汝ハ社會、
顧問官ナリ。汝何、違フ事ヲ斯カク專言
吐キテ自ラ品格ヲ失フナリ? —...—... —
コトハレナリ。余ハ品格ヲ失ハルガ爲メニ
云フ男ニ非ズ。品格ガ何デナルナリ? 若モ
ソレガ余ノ語ニ由テ失ハル者デアリ得ル
ナラバソレガ又余ノ語ニ由テ得ラル
ナリ。品格ハ然ル中ニ余ノ支配ノ下
ニ立ツ子バナラヌ。..... ナドコレモ分ラヌ
片言ヲ云フヒマニ午前十時モ退キアルハ直
ニ退キハ時登壇十二時ヨリ直ニ
三四時ニ百回(祝宴)ニ付テ既時大會ノ時

コノ三四日ハ吃以ヨ十一^年十一月ヲ以テ生
 レ工料ノ書生ヲ以テ租税カレハモツ今日マ
 隆盛ニ永続シ二百回ノ祝宴マツギ付ケル
 ハ堂ノ多ク、感亮セザルベカラザル一件ナク午
 午一時工料大專會堂ニ於テ演説會ヲ開ク
 幹子高橋辰次郎君本會報光ノ述ベルニ
 小川梅五郎君、祝辭ノ次ニ潮田傳五郎
 君 (what is electricity) 木正村一郎
 君、祝詞、松原繁氏、Calculations of

some dimensions of Heavenly Bodies.
 井ノ花屋代、右文洋航海方、浪浪ノ
 高橋ノ報告

	主云	料	平均
高橋ノ報告	85	80	82.5
小川ノ祝詞	80	60	70.0
潮田	85	85	85.0
松原	70	75	72.5
井ノ	85	80	82.5
木村	90	90	90.0

就中潮田ハ電気ニエテハリノ新説大
 余ノ耳ニ送ヒリテ祝詞ヲ幹子ノ既述ノ次
 ニカ高橋ノ報告ヲ祝詞トシテ乗算ニ供シ
 祝詞ノ一同一潮田今高橋ノ祝詞ノ長
 余ノ今見ノ出席スニ思ヒモトナシ

行候に石井の先云つ男共今金に
赴て石井の Violet de duc 云つ十四回
建築大家の傳り余の流の聞かたり此の
幼少頃非常の貧乏にモあり自決の道
得財への金以て馬を買ひに乘りテバス
市中の豪屋ヲ探寫シ大に之ヲ研究セリ此の
家は在り中ハ小説著述に又アルヤ山
へ遣派セシレハ此の岩石ヲ探寫シ三日
同一艱難に測量の務り傳り地理
及土地結果上ノ研究の遂ゲテ無涯ノ業
トセリ云々...又曰ク建築の修めり若ハ
種特有ノ才性ヲ要ス、又曰ク日本固有建
築史ハ今ナキハ吾人ハ一日モ早ク
著述セザルベカラズ云々... 嗚呼石井の
中ニ感心ハ男ナリ。Violet de duc、性
ト余ノ性ト多少相似タル点アリ余ハ舊テ
日中ノ Violet de duc ヲシラス。
今金に至リてハ身命若クテ六十名。カ
クラブル者。体操ヲクラブル者。雜藝百出。
軟睦、深情自アラルテ余ノ心ヲ喜ハシ
ム。且莫慮致ル頃業ヲ雇ヒテ後
家ハ後流ヲ聽察一同殿の遊膝を抱キ

ラドヨナキタリ 控りに酒酣たり 集人争つア
錢藝ヲ出ス。杯盤 狼藉ヤクドク。舞つ者、
歌つ者、笑つ者、怒る者、竹早、大混雑、
余ハ姑ヨリ 醉マシト思ヒケルバカシモ 醉
ハ直野又ニ教授、政夫、享況ヲ控スル
サルヲ 押除ルテ 大ニ智識ヲ得ル十句
私陸陽を即ト同車に寄リリケル車上出
達ハヤハ字俣上教授、不都合ハ外置
事ヲ訴ケハ 櫻ハ 數百言ヲ吐キイハ 休シ
大ニ醉ヒルバカシ 彼ハ 世オモ多クアツ 對
ハ無暗ニ長シカ 男ヲ 彼ハ今夜口ヲ
外ヲト 非常ナルモ 全ノ酒ノ 爲トスルハ 酒
ノ 氣和火ナラズヤ。

家ニリテ 見ハ 持シ余、櫻トシ 如ク 家ヲ
来リテ 固テ 其ニ 中ニ 平野屋へ 赴テ 加
ビニルハ 櫻ハ 入リテ 又シテ 飲ニタリ 余
ハ 今夜 後一升ニ 近キ 酒ヲ 飲マリ
然レバ 余ノ ヲリ 割合ニ 醉ハサルハ 全ノ
酒量 大ナルニ 此ス 余ノ 心ノ コシ 崑セザ
ルニ 由リテ 余ハ 醉ハント スルバ 醉セ
酒ハ 甚ダシト スルバ 醉ハス。 醉ト 舌ト 只ダ
余ノ 心中ニ アルニ。 何ト エライ 若クニ。

月宅、後當りト其ニ強曲ヲウケル。中々上手
ナリト俗人ハ評シタル由。支那リ一同、
義ニ就テ判決僅かに二十点ナリ
余ハ今夜ハ愉快ナリシ余ハ今電場
上ガスタ清瀬正マシテサレニ酔休リ、
アハサズ却テ他ノ羨者ガ酔先シコト
躍、狂フヲ見物スルコト實ニ面白シ。
思ヒ出ヌユ三年前、余ガ肩上ケテ取リ
シ頃ヨリ神田ノ松幸ト云フ牛肉店ニシテ
シゲト通ヒ烈シキ頃ハ一月ニ七八度モ通
ヒツラ度ニ泥酔沈酔、殆ト人事ヲ辨セザル
コトナリ。賤シキ婢ヲ相手ニサワキ狂
ヒテ愉快ト思ヒシニ減マレサ。今ヨリ思ヘバ
冷汗モ流シ斗リナリ。余ハ此ノ後ノ
家ニシテ通存セシ連中ハ何シモ今ハ
擦落ノ底ニ沈シ。摩海ノ汚金斗ヲ得マ
リ。一身ノ方向ヲ失ヒ。サレモ胸シタル
子老果ヲ得ヌハナシ。幸ニシテ余ハコノ大
難ヲ免ルル。ハ余ハ猪犬常ニ考フル所
ナリシナルベキモ亦余ハ信心スルハ極大
筭薩ノ妙巧カナラデナハ。余ガ身ハコレ清淨
潔白人ニ恥ツル所ナリ余ガ心ハ正々

嘗て思ふ所あり。然して人木石に非ず。人誰
か情にあらざる。大内丑之助輩は原義に誤りて
余今日教金アツ乞フ君ノ其ニ北里ニ遊ハレト江
原急ニ色ヲ正シテ大内ヲ責メシカバ 流石大内
急ニハツ敗タツトカヤ。又大内ハ或ル人ヲ
クシ余豈情ナカラシヤ、恨ラコト。末ニ懸掛
得ズト云フ。三途速ヒツコカニ余ニ告テ
曰ク、僕神アニ托ラサレテ春夢ヲ言フ。今
ハ即チ之ヲシテ...云フト。山岡式部曰ク
春夢ヲ買フコト余ツノ不可ヲ見ル能ハス。ト
。田中中山ハ冷泉流ニモ一突ニ付シ去リ。
本堂ハ尤モラレク大言ヌド。又何ツ其内ハ
ノ多少量ルアルヲ得知ラゾ。可マ。可マ。
本堂氏ヨ。田中中山氏ヨ。君乞フ自ラ君ニ内ハ
(時人アリ余ニ此ヲ曰ク、伊東屋君ヨソ自
君ニ問ヒ玉ヘ)

六月八日 (日)

昨日ハ多量ノアルコールヲ飲用セシ爲メハ
又タハ他ニ原因アルナルニ今日ハ午前十
時半迄寢床ニ在リヤウチノ起キ出テマ
何トモ氣鬱シタルニ室内乱脈吐スル
餘地ナクアルコールノ餘臭室ニシテ鼻ヲ
襲ヒルハ余ハ不愉快極メテ茫然トシテ
ギ床ヨリ十一時見エ身モムクト手足ヲ
バシテ起キ出テ何モ不覺氣ル馬鹿ゲタ
面相ヲ示シタルハ矢張り過飲ト過眠トヨリ
生シタル極メテ知ルベシソノ又不覺氣ル
トハ!尤尺ニ向ノ小室ハ其間ニテ新聞
紙トドテラトシテ充タサレ垢面ト汚衣ト相
映ジテ一段ノ醜景ヲ増ハシ。余ハ早登
飯ヲ喰ルヤ直ニ家ヲ飛ヒ出シテ上野
ヨリ一ツト至リテ旅行日程ノ調査
ヲ爲シ終リテ平田方ニ至リ芝ノ両見ノ
爲メニ箱庭ヲ修繕シ次ニ東助叔父
ニ逢リ叔父ハ輕キインフルエンザニ罹リ
床ニ在リ余ガ来リテ余ニテ張月ヲ演
講カセヨト云フ余ハ是れ非ナクシテ
二時ヨリテ經タル時叔父ハ六ツ教キ

漢文交リ書ヲ出しニシテ漢テキカセヨト云フ余
ハ早歎ナラズテテ漢ニタルカ漢文ノ町テ大ニ
引ケテ取り面目ヲ失ヘリ、ソレハ實攝ニモ讀
メト見ヘリト言ハレシ中ハ余ハ實ニ面目ナリ
シテ。余ハ平田ヲ訪ヒテ七軒ハ倒レ、其ニ
逢ヒ強ク閉口シタルガ事ナリト云フ。其年
テヨリハシテ先キ平田ハ成田村、下場
豊光ニモ、ガ逃亡上業セニトシテ此キ相生
銘死方ノ手紙ヲヤレト余ニ命ジリ余ハ
コノ命ニサレヨヘリ走リ山田ニ致死シテ
ヒテ大場ノ一件ヲ抱テス。山田ハ余ニ
テ倒レタル所不々拆テ復テセリ。山
田ハ昨日試驗ナリトテ真赤ニサテ(コレハ
ビールヲ飲シタル故也)勉勵セシガトシ
ケンカナル暗誦ノ事ニ居タルモ可笑シ
余ハ降堂、三宅ヲ訪ヒテ彼ノ事ヲ告ルガ
ニ宅ハ、本堂ハ漢テ勉勵スルカラ……ト云ヘ
リトケラゴドダリ余ニハ分ラズ余ハビール
騎ラント云フニ三宅ハ賛成シ門限邊ナラバ
トテゴマ化シテ門ヲ出テ余ニ「スタート」試
シレノダガ居バドダト云ヒレニ三宅ハ聲ヲ
ソレヨリハ豊國地ヘ行ケバト云フ余ハタツ今迄

フニテ飲ニ飽ヒシタルバト云フヲオクテ月レシツナ
僕ガオコル故ワキ食ヒ玉ヘトテ至表忽ク勢ヲ
異ニシタリテ空ヲハキテ上ノホト斗リナリトナリ
空シタルガミルノケソウ酒大ニ發シ日記ヲ
ワケテ十一分露ニ致リ判價ニ十一點ナリ

六月九日(月)

七時起きハ八時半老授四時半帰宅ス所ハ
ナルベキ手紙ナド読ムル内夕食トナリ復後
兄ハビールヲ飲ニ行ク云フ余モ整理シテ
同道シ大睡ニ本ヲ化スケケル一尙ニキソ
見ヘズ例ノ寄ニテ買物ヲ潤ハリ知電ヲセバ
ヨカリニ弓町ノ天ツチ屋ヘ上リテ酒ヲ飲ム
見ト鉄ノ製法鉄銅ノトナド讀リ合ヒルニ
隣席ノ男商人デモソ官吏ヲナク職人デモナ
ク無テ簡書生デハナキ怪物ナルガ突如ラ荒シ
カケテアルニ又ハノ製法及ツテ以テ鉄ニ并用
スルノ議ヲ唱ヘ已レ今ナリニ研究ニ居ルトマヘ
リ彼ハ余等ニ意見ヲ尙フ故ソレハ無益ナク
シアルニ又ハハ州事ニ係ル金属ニテモ取ル
ニ莫大ノ金ヲ費スベシトマヒレ彼ハ冷笑シ
テ云々余ハコノ困難ナル事業ヲ遂ケベシト云フ故
之分ニ見テアリテ豫算ハ如何ト尙ヒレソレハ
調査中ナリト答フ何サマ只物ナラジト思ヒシガ
貴殿ハ何ヲ職トセサレハト尙フ画工ナリト云
西洋画カ日中画カト尙ヘバドウヤデモ書シト
答フ自得ナリテ派内ナリト云ヘバ自得ナリト云
フ号ハト尙ヘハ号ハナレ自ラカクレンボ一ト云フト

君ヲ彼又曰ク余ハ藝術ヲ研究シ傷ヲアルニ
ノ製造ヲ企テ他日此等ニ大業ヲ翻ヘサレキハ必ズ
思ヒ當リ玉フナラント云フ。余ハ自身ハモ画ヲ好
ムガ洋画ト和画ト何レカ賞意ニ合ヒタルト向
テ彼レハ画トシテ和洋ノ區別ナシト云フ。余ハ
重テ画ノ中心ニ髓ニハカワリナキモノ道ハ互
異ナリ洋風ハ遠近濃淡ヲ評シ和風ハ横様
気韻ヲ評スルニ非ズヤト向ヒレ。彼レハ何ト
思ヒシヤ忽チ語ヲ轉シテ別テ汝ニ揚リ人生ノ
最大快樂ハ何ナリト思ヒ玉フナド云フ。余ハソレ
ハ初對面ノ貴殿ハ云ハレズト云フ。其外彼
ノ向テハ非常ニ長クシテ一々月懸セズ。然レ
ノ程ハ余モ大ニ彼ヲ信ジタルガ中頃ニ至リ
テ余ハ非常ニ彼ヲ疑ヒ終リニ至リテハ全ク終
ガ狂者ニアズレバ大言家ナリト看スルニシタリ
サレバ余ハ詭計モ終リタル頃、貴殿ハ中々
ノ浪蝶吹キダス。ト頭上ニ一針ヲ加ヘ
タルニゾ。昔彼ハ苦笑ヒシテソレ見ラレルノガ嬉シ
クザルナド。又ハソレ彼レハ又レガ幼キ頃ノ侍
ヲ授キ自ら凡人ト一様異ナルコトヲ授キ立テタリ
何ヤマ、ウツカシクシテ居ル人ハ彼レハ一盃食ハセウ
ルハナレバレ世ノ中ヲ渡ルニハ中々油断ハナラヌ

ナリ。推スルニ彼ハ無資無産ノコロ付キニ流シ
レバ不正ノ行ヲモテ又此ノ乗子又男ヲシテ十
一ノ時ヲ定メシサシク日ヲセラフケタキリニテ醉ノ爲
ニ睡レリ判定ニ十一點ナリ

今日小林源次郎ノ爲メノ爲ナリ
ドモコノ此ハラズニ候モカハラス酒バカリ飲
ミ早業ノ代リニ日ヲセラフケル馬鹿ニテ又ザハ
アル哉

山下屋次郎五ノ時頃来リ夏中旅行ノ里程
ヲ調査ノ爲ナリ

十二ノ時半頃山崎鉄花ヲ訪フ有メノ爲ナリ

六月十日(丸) ?

今朝ハ昨夜コリハ雨引キツビキテ盆ノ化更ケルノ猛雨トツ勢奔雷ノ如ク車軸ヲ流スベク
夕キハ雨ニ適易ニキハ眠気ノ失セザルニ無
難ニ七時五十分マテ朝食シテ奇ニ怪ニ吐ク
怪事ノ夢眼前ニゴラフキテ茫然シルト数分
分トテ及ビシガ斯クテハバキニ此ノ大
雨ヲ記シテ八時四十分ニ登校九時半内科
教室ニ至リ見ニ逢フテ浴槽ヲ見ツコト余ノ喉
頭カタルニ罹ルガ為メナリ。十二時半帰宅一
時半再ヒ登校四時五十分リ帰宅天運緒
環海五枚ヲ草ニ終リタルハ終ニ日暮シ
リ見ハドコニテ飲シタルカヘ酔ヒテ臥シ
タリシガ山田方ヨリ迎ヒテ若妻リテ出テ行
キ又余ハ今視見ノ極メテ産ケルベキヲ侵ズ
余ハ史ヲ建彦史ヲ研究シタルガ細雨
戸外ニ肅々タルヲ聞キテ氣ニ思ヒ立テビ
コヲ取リヨセテ化更ケテガ一向ニキ、目見ヘズ
余ハ是レトク勉強ニトクカツ十一時寐ニ就ク
判決三十六点ナリ。

六月十一日 (水)

何故トモ知ラズ余ハ今朝大ニ朝寝ヒク余ガ
自朝寝ト白状ナル血ダカラ定メテ ナ一時頃テ
昼寝ト兼帯シタゾハ無カト聞キテ見ルト
案ジル程デハナク八時五十九分ト云ッキワドイ
度ルデ起キ外云ッカラケレ安心シヤウヤ朝
飯モ喉ヲト一ツタルガ通リカ子タル余ハ候ハ。
例ノ加多見ノ大ナヤシ。天神サマヤハ幡ヘ。
百度参リモコレソナクニ。逢ヒタイ斗リ添ヒナイ
斗リ。ワレノ心ヲナツテモ。汲ンデ呉レタガ
ヨイワケ——。伊東君何ヲ
寝言ヲ云フノダヨト余ヲ誦ルモノアツ警キ
テ起キ出テ見バコレ内村達以即氏ノ書
面ナリ。

九時半登樓ナニサ登校。今日文部大臣
芳川 賢正殿カ大勢巡リ預メケルトノト
丈ハ就キヤモ不平ナルハ。此ノ次官ヲえ
老院へ追ヒ込ムト確説。世ハ我儘ケル
ニラ通ルモノニヤ、大臣ガ入シ替ルト次官カラ
局長判任ナキ等ニ至ルマデガテト代ル
世ノ仲借モ借モアジキナナ。イヨ、待テ居
マレタ。ナニ朝願ノ大井川モ旧ヒ物ダカラ

今度ハ一番風替ワテコ(物ヲ出スト致スベ
シ。... 変レバワルシ、姿。昨日、次官今日ハ
又。元院(老)、暮、鐘。諸行無常ト誓フコト
笛ト刺ハハナケル。此リ町モ跡ニ見テ
人ハ心ノケント鳴ル。ムケン、坂ヲモトリスルガ
向テ見ユル不忍ノ世、面ヨリナホ、塵キ。
ソグミ、海ニ泳ニレセ、仰ッテ今日
ソ目度ケレト天長節ニハ謡々玉ヘナ。
五時退授余ハ篠突ク、奴雨。イヤ待テ
玉ヘ余ハ未ダ奴雨ト云フ字ヲ一箇カズ。
ソーサ君ナドノ俗耳ニコノ名句ヲ入ルモカ。
余ハスターコシトヒキテ、渡車賃錢ヲシラヘ
直キニ又家リテ、晩飯ヲ喫ク、走リテ試験、
準備トソカリ大モガキ、モガキテ、筆祀ヲ音渡
ス、又有力年親、原野ヲソバルト、凡テ三枚
中々手真目テ内吐ローガナ。余ハ又々勉強身
ヲ入レマ、一休息トシテ、時ヲ見レバ、已ニ十
時ナリ音渡セシ、空腹ニテ、コラヘラ、ス
即チ數十錢(實ハ二十錢)ヲツカニ出シテ
懐中ニ家ヲ出テ、イロハ、屋ニ入リ七錢五
厘ト云フ大モ、掃テ、終リナカモ、ヒールヲ試
シテ、切通シ、方ヘ、真地、暗ニ、馳セ下レ、向

フツリ一人、奇体ハ男歩ニ来ルヨク、見バコレ
孫次兄ナカキ余ハ急ニ手止ムレバ、ア、忠木、
大層遅ク出ケル子、ドコヘ行ケタダ!“”ビーン
1. スタ7.“”色シモ一所ニ行コウトコロヨ、
人ヲ扱フ下リガビーン屋ナレバ、ウヲ得ズ
如儀ニ改メ途中、高川町、ソバ屋へ上ルニ
同店ニ二人ノ士士、来リ居リしが、見テ、
ト思ヒタリケレ、是下ハ何處ノ生シタルト問フ、
澤ト答フルバ、櫻拳騷動ハ如何?“”イ、
中々烈シキトデス。“”ハ、米澤ハ大同派デス
ナ?“”ソ、デス大同ガ勢カガ一番強イ様デス、大同
ノ外ハ先ヅ政黨トシテハ無キ位デアリマス。“”ハ、
候補者ハ誰デアリマスカ?“”先ヅ五ヶ嶺カ助ト
云フ男デシヤ?“”是下ハ何レノ派ニ加入セラル
ヤ?“”イ、僕ハ一切政黨トハ関係、無イ者デ
ス。“”コレヲ咄ケレシケタリ。今度ハ兄ノウカラ
“”貴公ハ何レノ国ナルヤ?“”北陸デアリマス。“”新
潟デスカ?“”イーエ越中デス、コノ先生ハ石川縣デス
トテ連レ男ヲ指ス。見ハソノ男、向ヒ貴公ハ早川
ナドヲ内ニ存ジデスカ?“”早川トハ誰シデス?“”早川
今吉郎氏デス。彼ハ首ヲ傾ケケ、イーエ矢口マ
セン。“”ソレデハ久徴館ト云フヲ内ニ存デスカ?“”エ

夕徴館+ラ廻聞イラ居マス'コノ時今一人
男(サキ=ウ先レリ)ソレナラバ見下ハ大學=南
係ナル内人ナルヤ'ソレデス'モ一ウ卒業
+ツマレタカ'来年卒業デス'法科デスカ'
'イーエ医科'医者'オデスカ'ソレデス'
'オイモ一行コージヤナカ...勘定ハ...ナニモ
レタノト...ドーモ失礼'ト釋會シテニ
人ハ文ヤ出テタリ。余等モ家ニヨリテ修業
ヲ平シナドスル内十二時ナレリ即チ寢ニ
就テ判決四十六点ナリ明日ハ六十点
以上ナレリ

六月十二日(木)

今日ハ相應朝録ニ上等ナル夢ヲ見(イコル
上等夢ハ一週キスナラヌ話セ話セ……イ
云マイ云マイ……)終リ七時ニ起キハ時中登
校五時ヨリ直ニ直ニ急次ニツカイル程ニ
日ハ早暮ク銀光ヲ暮ルル為メハ勿クガ
ト出ル例通り一ハ、並ニ飲
行ク丈シク又字ハ知ク大ニ字課ヲシラバク
リ今日ハ一ハ家ニテ山田、湯川、馬島、三
好、四喜、傑ニ逢ヒサシ愉快クシ家
リヨリ十一時半マテ急病ニ墜リ社判
決凡ク五十三点(凡ク分ヲイフ……
ナル成程、ソレハ概カ五十三点……ナリ)

六月十三日(金)

例通り皮紙朝寝の遅り九時を過ぎ
五時半 冨いヨリ直ぐ勉強スル。ボーグ……
近頃ハエライ勉強スル。ボーグ? ソノ苦ヲ試
験ダモ。試験ト聞テ此ハ後 勉強スル
ハ湯ヲ井ヲ堀ルハ同様ヲモ近 趣ナル
内言シテ到底大人君子ノ翻ラシムト
ス然レモ今ノ世ハコレヲ濁山ヲ真ニ試スル
ハ沢山ヲ子一見王ハ僕ハコト近 趣ナル
道ヲ取レドモ試験ハマレガ六ノ下ノ
点ヲ取ラズコレモ九ノ点ハ取レバ貴クダ
カ一糸ガ九ノ点ヲ取レバ一般人ハ点ヲ
當トスルカ忽チ伊東ハエライ伊東ハ
出来ルト云フ。余ケレモエラカズ余ケレ
モ出来ズ。世ヲ評ト余ノ心ヲ痛ト違フコト
夫レ断セム。世ヲ評ハ無責任ナル世
評ハ信ズルコト云フ。世人ハ吾レニ是
ス。世オハ貴ク是ラズ。世間ハ馬鹿ノ集
会ヲ世俗ハ汚聲ノ堆積ヲ(ソノ
濁世ハ眞面目ト云フ口糊ニナリカ。ツタ恐
ルベシ恐ルベシ。ナレバシダダ。ナマイ
ダ。……マコト今日ハ十月某ノ日。……)

ナカント 歎息スル内家身おきまゝ直ナシ
有る身事務ナリカッ 朝食トテ 饅頭
トビールヲ取り寄セ二人 器ヲ合セテ
ウマガリテ食フ。折シモ見ハビーンヲ
提へ 折詰ラブラカゲテ 帰り来ルツノ
体ニ 想像シテモ知レルベシ。年
等ハ大ニ喜コヒ 折ヲ 用キテ 正ビ
ノ 甘煮ヲ キコシモノ 佐ヲ ナラシテ 此
ヲ 飲ミ 終ニ 愉快ニ 喜ビ 終リ 刻
四十五分ナリ。

農林学校の帝國大學へ會係農科大學にて

六月十四日(土)

午前何時ヤラニ起キテ直ぐに登校今日ハ子
議員會ナルモノハ十一時半ヨリ夜ニ室内
清テ待テドモ待テモ子議員ハ一人モ来ラズ
コト全有るヲ見抜テタノゴト凶事ニハラス
何レモ支ノ難キ事故アリテナリ。余ハ心中面白
カラズ。オトモ、原語事務係ナリ。己ノ時半頃迄
リテ芥沢若古先生來ニ由テ事務ヲ行テ謝ナリ
タルガハハ、器ナリ。彼ハ今年大學ヲ卒業シテ
法學士ノ肩書ヲ得自宅ニテ代官事務ヲ扱フニ
タリ中ハ、彼ハオチヂアル。體テ江原銅先出
リ來ニ由テ例ハ、如ク快談ヲ始メ、彼の度ニ世
知ル決テ物語ヲナスル内日暮レリ。即チ酒一
升ト牛肉一升ヲ賣ホリテテテ、興ヲ助ケ、村井、
江原、見徳ニサシ感シタルガ如シ。成ル程村
井ハ多ク江原ニ似タリ。性アル。體テ兄ノ
家リ更ニ五合ノ酒ヲ年々余ハ江原ニ對大丈
ヲ可望シタリ。江原ハ洋服上ニ羽織ヲツケ
ズ。スカーツ尻履ニカヘ同シ。洋書ヲツキ上ゲテ
見合ヲ作り、倭文筆ヲツキヒロゲツ、口裏一
咳。玲瓏ナル好音ヲツキ上ゲテ朝顔日記
ノ全段(卷五ノ大井川)ヲ讀ミタリ。余ハ

視席ヘデモ行キタシノ地テ皆然トテ浮世
ノ先ヲ忘ル。氣ヲ手ハ親友ヲ。語ヲ物ハ余、
愛ヲ玩スルモノナリ。況ンテ亦微酒、氣味アル
バ何トテ愉快、情ヲ添ユルナリ。江原ガ
一種、夏音ヲ放テ、露ノ干リ同朝風、
照ラス日影、ワレナキ、アハレ一歩雨ハラクト
降ルカト思ヒタルハ余ハ思ハズ吁ト感歎
セシナリ。ヤガテ江原ハ大岡院ト安達ヶ原、玉
藻ノ前ニ八陣。二十四孝ヲ先代教。モ
一コーナルト似脈ニ江原ハ幾ニ倒レテ
ムリス。余等モ次ヲ擡リ我、時ニ十一時
四十分。判決ハ三十五分ナリ

六月十五日 (日) ?

昨夜九時半田産の女児がエトノ軒
ヲ今朝得タリケレバ今朝五時ニ起キテ久
ブリテ曉ノ快風ニ吹カスニ愉快ナル地
セリ。成ル程朝ハ早ク起クベキ也。江原ト朝
酒ヲ酌ミカフシタルガ余ハサレク勉ク強ク
レリ。八時半足ヲ三人連シテ平田ヘ行キタリ。
平田ニテハ不幸アリト云ヘ産シ斗ク赤児ナレバ
儀式ニテ。吉川、高木、伊佐トカ来リ居ル
ニナリ。余ハ実ハ明日ヲ試験アル故今日平
田ヘ行カマシト思ヒシ位ナレバ程ヨクワテ直
ヤリヨシ也。因果ヲ見シ果ニテ今日ノ施主ニ
依頼ナレタリ。余ハ家ニリテ明日ノ試験
準備ニリカッタリ。三時頃山崎登ル来リ
リコシ今日酒量多ク強信セシコルナ
リ。四時半归ル。余ハ一心不亂ニ勉強シ
徹夜セント思フニ企テシガ終ニ睡魔ニ
打テ勝ルテ十二時迄ニ終リ判決六十九
点ナリ

六月十六日(月)

今朝五時半起キ一ノ不眠ニ勉強シテ
 正午ニ至ル一ノ試験ヲ受ツルニ余ハ好
 ハ建築歴史ヲ十題ノ間ヲ三時百事
 ニテ終ヘタルガ十五枚ノ草シツサニハゴヤ
 化シテ用事或ハ大急ヲ吐キカガ正味ハ八十五
 点ニ至ラザルモ知ル。試験スニテ大ニ安心
 シ理髪シテ後考レリルハ山下院次郎東
 ルヲ見テ五十分ノ後其ノ考事ニ出カタルガ
 余ハ彼レノ十ノ豊田院⁷ニ招待シ日本
 酒及ヒビールヲ飲ムテ快テ彼レノ大ニ余
 ヲ候ニ余ノ他日大名ヲ拜シテ希冀ス余モハ
 満足シテ彼レノ考事ニハバキテ其ノ十ニ且
 彼レノが履歴トシテ聞キテ大ニ樂シクアリ
 余ハ快テ心ヲ開キ酒ヲ大ニ飲ミテ
 山下ヲ又々ビールハansニテ考レシニ彼レノ
 婦レテ知ル。余ノ畑地ヲモ勉強ガ出東ス
 十一時モリモ寝ニ就ク判決五十八点
 十

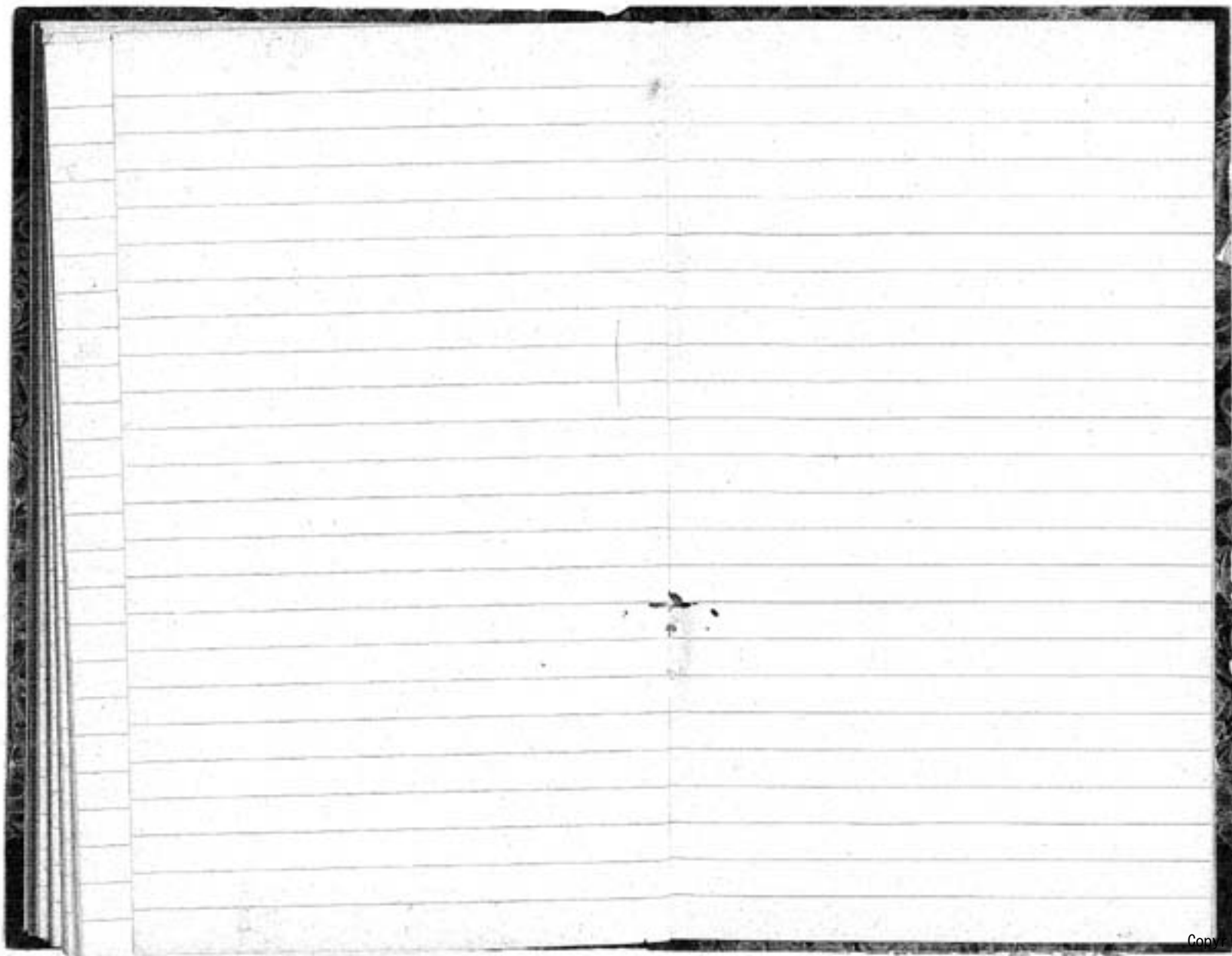
六月十七日(火)

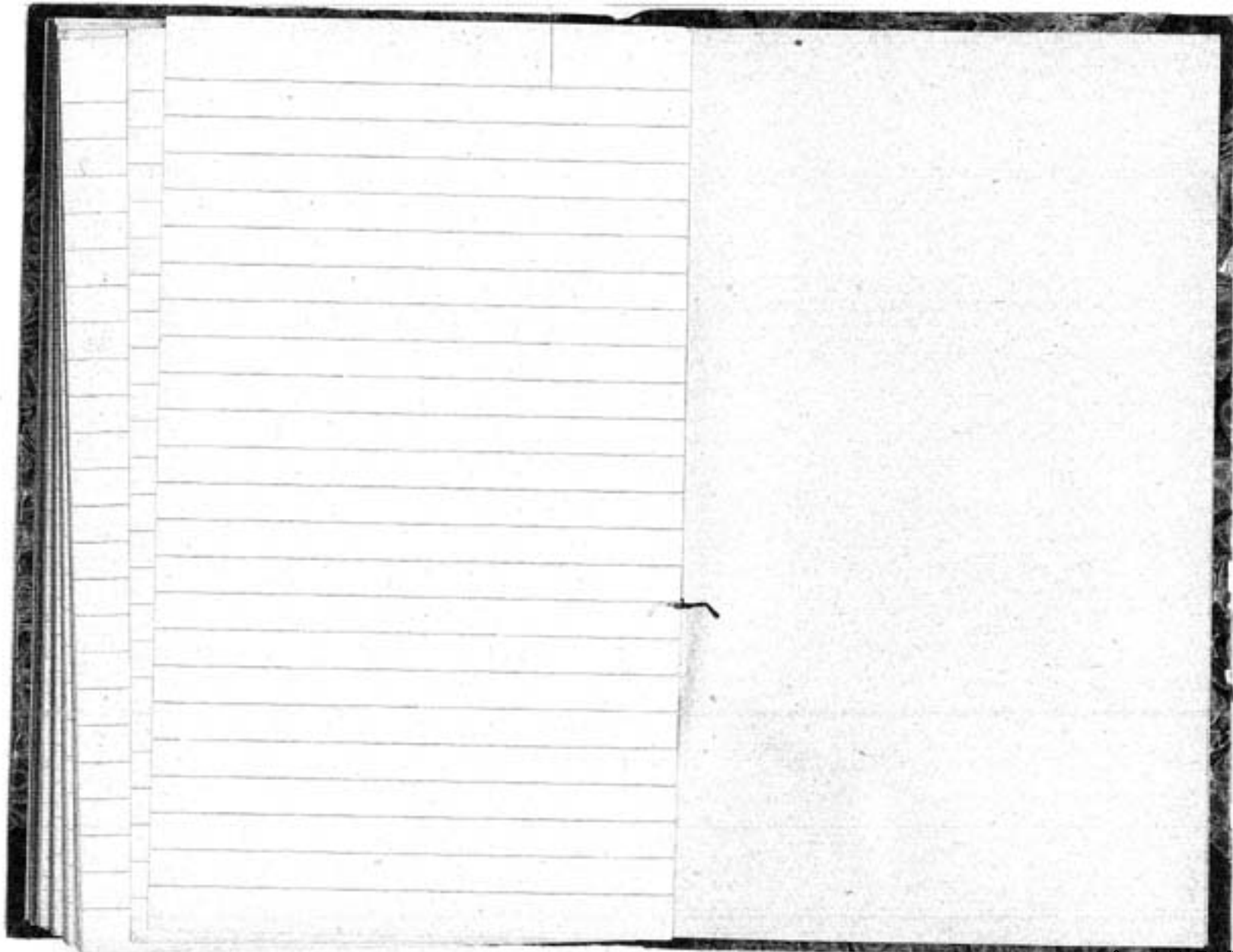
葡萄酒トハアザレヒ何トツヘンテコソソ
コデ九時登校 五時帰宅有る等雜語
厚鴉標定ニ従フ大ニ時有る費トナリ
九時足ト共ニ教室ニ出カケ 例ノ通り
ビール^{ham}ニ入ラ大ビニホ^倒レタ
リ 归途見ハ例ノ梯子飲^シ主張ニ是^非ナ
(イロハ) 扨ハ登^リ又ニ飲^酒食^肉ト^兩醉
飲^ス 归途余^ヲ 罷^談シ大ニ^{バツ}ヒ^ケゲ^レフ
ヲ行^フ 真^砂町、先^町、西^片町、表^川町ト
ヲ横^行シテ至^ル町ニ 乳^栗振^舞ヲ^振ル
ドモ誰モ^知ル人ナ^レ只^ト地^ト舎^ト見^トカ
知^ルル。カ^ル業^戲ガ世ニ^知ル又^ハ全^ク
東^京ノ^廣キ^故ナリ。未^決ダ^ニテ^カル^事ヲ^行ハ
バ^忽チ^ニシ^テバ^ト世^ニ廣^ガル^ナラ^レ。ワ^ルイ^ト
ハ^ヌマ^ジ者^ナリ。一^時リ^ヨ電^ヲシ^テ豫^ニ決^シ判^決
決^ニ十^点

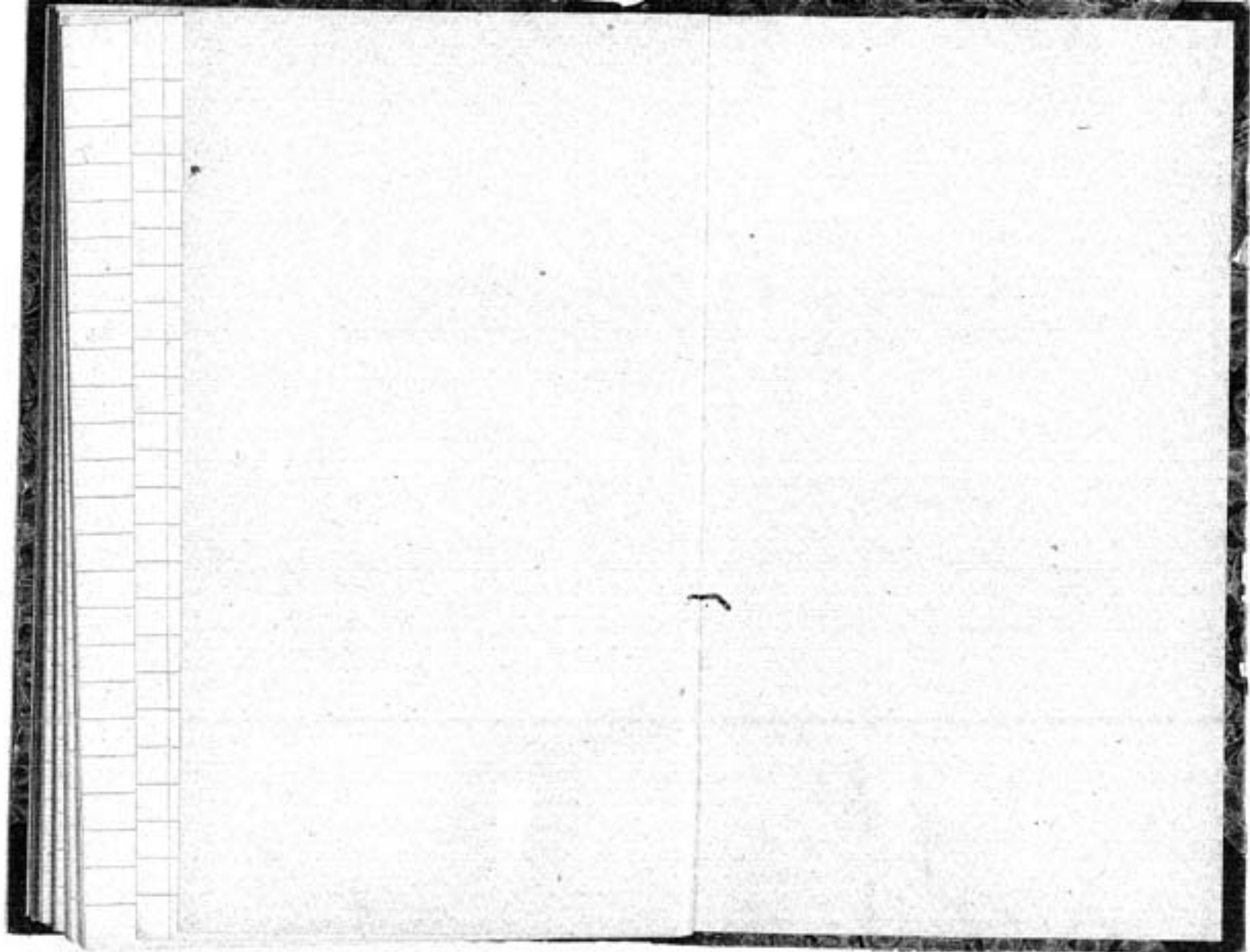
六月十八日 (水)

余ハ、宿醉、体ヲ只モ同様ト見受ケラレ
余ハ酒美、多ク心進メズ十時至接四
時半付也シ大ニ原摺、交テ尾カ狼狽
ス余ハ夕食、後子ガ中堂ニ至リテ中條氏
ヲ訪ヒ抱ク彼ハ此レノ彼ハ、矢張ソ余
ト同ク造家者ヲ修ムト、素志アリバシキ
ニ余ハ憤同ス余モ亦々彼レニ造家ニ通ス
ク知ルヲ以テ懇ク之ヲ説明シ聞カセガ
余ハ十六七歳ノ頃ハ彼ト同ク起卧ニ付
レテ好辭手トシテ詩文ノ作、彫刻ノ事トセシ
命ヤ即チ大ニ経歴ヲ余ハ只ガ彼ガ不
オク胸ニ (ソレ余、オト自負セザル故安心
アリ) 余ハ丈ノリ小林深死ヲ訪ヒ次
ニ、字號見大助ヲ訪ヒ、後田信死ヲ訪ヒ。
後田ハ里田ト云フ家ニ至リテ来次先生ノ訪
フ時余ハ、宿所ヲ知ラズガ爲メ里田
赴キレニ同家ニ下宿スル来次連ヲヤト
押シ濟セ来リテ余ハ高現 (オト鼻ガツカ
ヘル) ヲ承ヘラシメ余ハ得意ニテ奇妙
ノ意見ヲ演ズルニ、養生ハ感心シテ拝願セ
リ青柳龍五郎氏ハ余ニモテ菓子ヲ馳

走レタリテ余ニ興入リテ右ニ左ニ
應レテ行キヌ間モナカシカラ夜ハ次中
ニ深ク行キヌ何時ニナリト同ハナナ
ヲ過キタリ云フ余ニ同電ヲ出テ帰途
ニ立テ飲ムナカシ今日ハ既日毎
務ニ奔走セシ甲斐アリテ余莫常ナク大
概ハ知レタリヤレト例ナクナク面
倒ハナホ我慢スベシ時ヲ奪フ大ニ
我慢スベキ限ニアラズ。咄々汝? 判
決ニ十三点切。







明治二十三年

自五月十四日
至六月十八日

第六

6

6

M.23.5.14
~ 6.18

5.18ヨリ記了、14~17日

うきよのたび